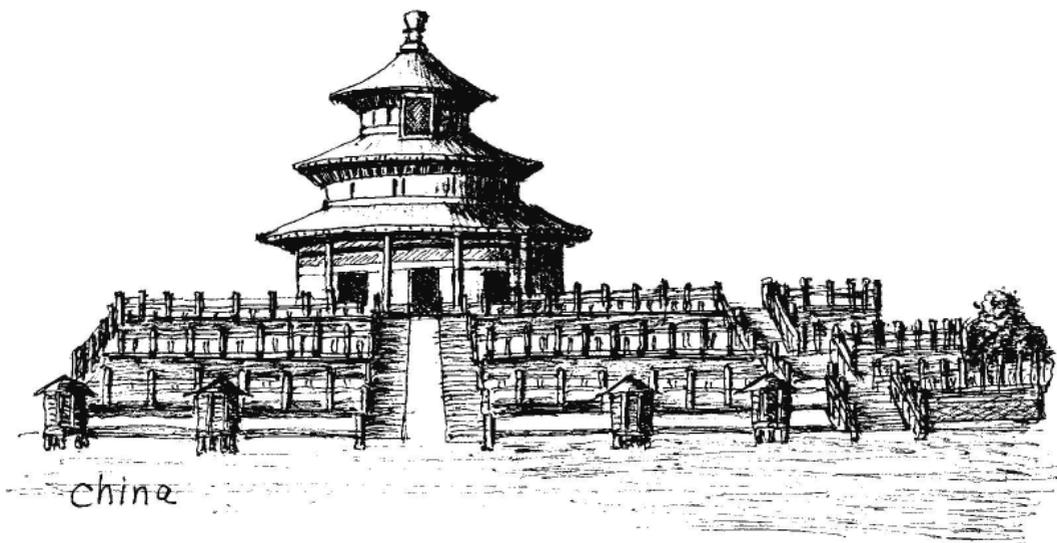


# ***Feed Trade***

**VOL. 57 NO. 3**



**2021**

**7~9**

**飼料輸出入協議会**

**JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION**

2021年 7～9月号



## 目 次

### <海運セミナー>

2021年のバルク海運市況について…… (2)

講師：森田 公平氏

理事長新任あいさつ／白木 友宏…… (30)

令和3年度新役員，専門委員会の委員決まる…… (32)

私のプロフィール／姫野 健二…… (34)

シリーズ●わが社「自慢の逸品」——第28回

“DAIZ・ミラクルミート”のご紹介／兼松食品(株)…… (36)

シリーズ●各地の食生活——第6回

オーストラリア第三の都市ブリスベンより食レポ／日野 翔太…… (40)

●わが社飼料関連部署の新人紹介

三井物産(株)，双日(株)，三菱商事(株)，豊田通商(株)，丸紅(株)，兼松(株)，

伊藤忠商事(株)…… (47)

### <WEB会議・座談会>

米国産トウモロコシの需給とシカゴ相場動向…… (58)

出席者：島田 達也，高橋 千明，浦丸 公猛，遠藤 克哉，

加藤 淳，長谷川朝飛，藤原 玄，〔司会〕三崎 邦浩

New Balance<6>／岩崎 正典…… (90)

秋季為替セミナー開催のお知らせ…… (111)

編集後記…… (112)

## 2021年のバルク海運市況について



<講師>

川崎汽船(株)ドライバルク企画調整グループ  
プロジェクトチーム チーム長

森田 公平氏

●日時 令和3年6月11日 ●場所 新橋ビジネスフォーラム

皆さん、こんにちは。よろしくお願いたします。ただいまご紹介にあずかりました川崎汽船の森田でございます。

本日は講演の機会を与えてくださり、ありがとうございます。コロナ禍で大変ご苦労も多かったと存じますが、三笠専務理事様はじめ事務局の皆様のご尽力に大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

本日は、対面とWEB形式のハイブリッドな講演スタイルをとっております。会場のほうは、“K” LINEファミリーの皆さんと事務局の皆さんの熱気を感じつつ、まるでホームゲームのような雰囲気をつくっていただき、ありがとうございます。画面の向こうは、お忙しい中、聴講されている多数の方がいらっしゃるわけですが、本日は海上フレート担当者以外の方々も多数ご参加されているとお聞きしております。海運のドライバルクにあまりなじみのない方にも、わかりやすい平易な説明に努めようと思います。どうぞよろしくお願いたします。

本日のアジェンダは、4部構成でお話を進めさせていただきます。第1部



セミナー会場風景

は需要編，第2部は供給編，第3部で市況見通しをご説明させていただきます。第4部は，弊社の環境対応のご紹介を通じて海運会社の直面している環境課題について，皆様と情報をシェアできればと思っています。

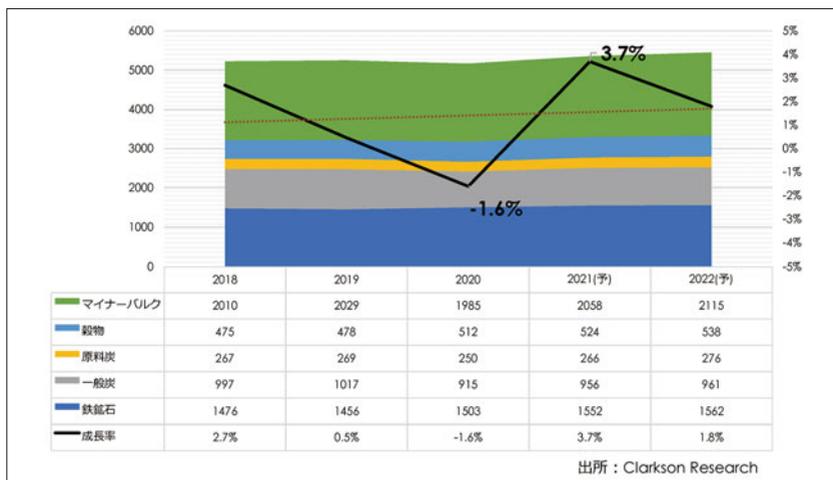
## ■第1部 需要編

まず，資料1（編注：スライド，以下同）をご覧ください。これは，ドライバルク貨物の輸送量を積み上げ面グラフで示したものです。緩やかに増加する見込みであることがおわかりになるかと思います。線グラフは前年成長率を示しています。このグラフは，2018年以降2022年まで5年間平均でならしますと年プラス1.4%，緩やかな成長になると予想しています。

特徴的なところを申し上げますと，2020年は，前年比マイナス1.6%減少の51億6,500万トンの海上輸送量がございました。コロナ禍，感染拡大によって，各国の経済，産業活動が停止しましたが，その結果，石炭や鋼材，木材等のマイナバルクの需要の落ち込みが激しかった一年でした。一方で，感染拡大抑制にいち早く成功した中国では，高水準の鉄鋼需要が続きまして，鉄鉱

資料1 海上輸送量53.56億トン（2021年）

爆発的な荷動き増加は見込めないが緩やかに増加（5年平均+1.4%）



石等，原材料輸送需要を下支えしました。

1年間を通して見ますと，コロナ禍だったことを考えれば，輸送需要はまだ健闘した，まだだったのかなと考えるべきではないかと思えます。

2021年は，前年からの振り戻しで，各国の経済，産業活動の再開により，石炭，マイナーバルクなどの輸送需要の回復が期待され，プラス3.7%の成長，53億5,600万トンの海上荷動きを予想しています。

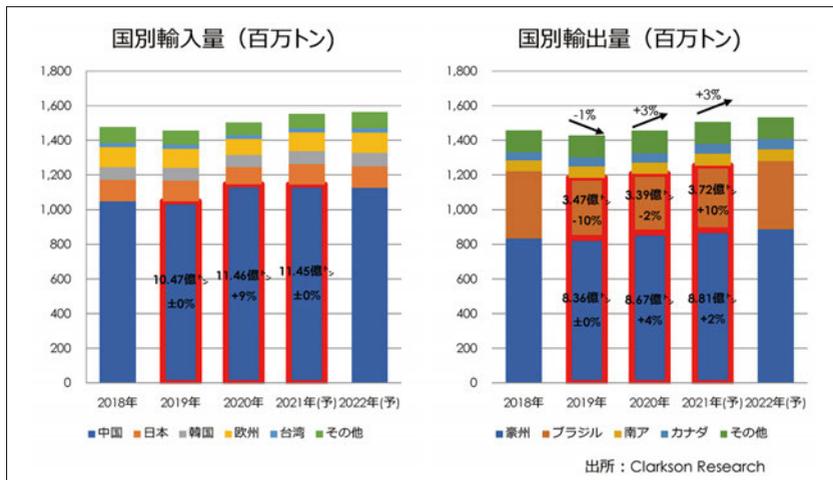
中長期的には，世界的な環境保全の動きや，不確かな中国の粗鋼生産の動向もあり，鉄鉱石，石炭の急激な輸送需要の拡大は期待できないところがありますが，人口増加に伴いまして，穀物やマイナーバルクの成長は維持するものと見込まれます。

資料2は，鉄鉱石の海上荷動きを示したものです。2021年は，世界全体で前年比プラス3%増の15億5,200万トンの荷動きを予想しています。鉄鉱石価格が高止まりしてしまっていて，積み地のサプライヤーの出荷意欲は引き続き強い状況が続いています。

右のグラフは輸出国の海上荷動きです。2019年は，ブラジルのバーレガダ

資料2 鉄鉱石15.52億トン（2021年）

2019年は前年比-1%減、2020年以降は緩やかに荷動き回復を継続



ム決壊事故等の影響によりまして、世界全体で前年比マイナス1%の14億5,600万トンの荷動きにとどまりました。特にブラジル出しは、前年比マイナス10%減少の3億4,700万トンと大きく落とした一年でした。

2020年は、世界全体で前年比プラス3%、15億300万トンの海上荷動きを記録しました。

ブラジルは、前年比マイナス2%減の3億3,900万トンにとどまりまして、ダム決壊事故からの回復を期したわけですが、コロナ禍が追い打ちをかけた格好となっています。一方、豪州はプラス4%増の8億6,700万トンを記録しています。

続いて、輸入国の動向です。中国は、2020年は前年比プラス9%の11億4,600万トンの鉄鉱石を輸入しています。コロナ禍においても、中国一国のバイイングパワーが目を見張った一年だったのではないのでしょうか。一方で、2021年以降は頭打ちとなっており、漸減していく見通しとなっています。

日本、韓国、台湾、欧州などの主要国は、2020年、軒並み前年割れを記録しました。2021年は、前年からの振り戻しでプラス成長を見通しています。

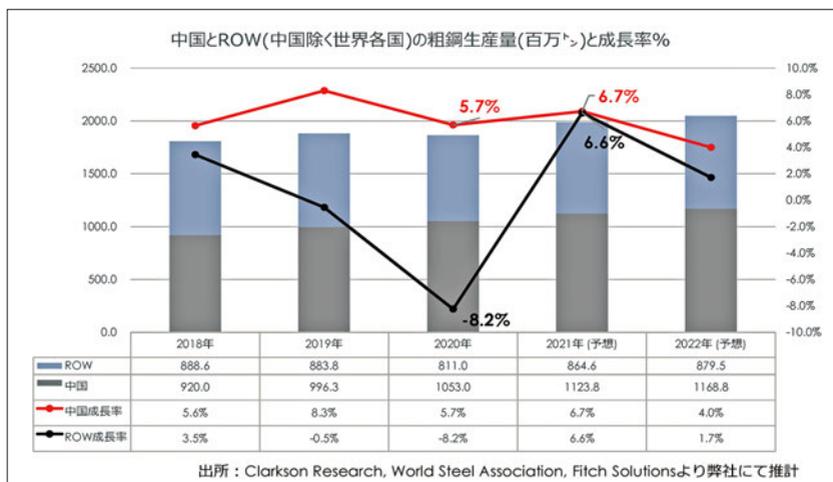
資料3のグラフは、それ自体は海上荷動きそのものではないですが、鉄鋼原材料輸送需要と深い関わりのある、世界の粗鋼生産量の見通しを示したグラフです。2020年まではClarksonの実績を載せています。2021年予想は、World Steel Associationの2021年1～4月の累計生産量を年率に換算して予想しています。2022年の予想は、前年予想にFitch Solutionsの各国成長率を掛け合わせて推計したものです。

Clarksonによりますと、2020年は世界全体で18億6,400万トン、前年比マイナス0.9%減が実績として挙がっています。

中国に目を向けますと、10億5,300万トン、前年比プラス5.7%増となっていて、中国を除くその他世界では8億1,100万トン、前年比マイナス8.2%減に落ち込んでいました。

2021年は、世界全体で19億8,800万トン、前年比プラス6.7%増を見込んでいます。中国は11億2,300万トンで、前年比プラス6.7%増で成長が継続することを見込んでいます。一方、中国を除くその他世界も8億6,000万トン、前年比プラス6.6%増で、前年の落ち込みからの振り戻しが見込まれて

資料3 中国と世界の粗鋼生産量  
中国頼みの大勢は継続／脱炭素化で産業構造大転換も



います。

2022年も緩やかな成長を見込んでいますが、長期的には脱炭素による産業構造の大転換の影響を受ける可能性があります。

続きまして資料4は、インドの鉄鋼生産量の予測を示したグラフになります。次の中国と期待されているインドですが、インドの鉄鋼業界は、政府のインフラ支出と民間需要に支えられ堅調に成長してきました。World Steel Associationの2021年1～4月の累計生産量により、インドの2021年粗鋼生産量見込みは1億1,400万トンとなります。

こちらは弊社のインド法人であるKline Indiaが作成したグラフで、赤の点線がインド政府の計画値、赤の実線が現実的な生産量の増加カーブということです。政府予想ですと、2030年に3億トンに迫る数字となりますが、弊社の予測としては2億トン前後と見込んでいます。

インドは、国内で鉄鉱石を生産・消費していますし、輸出もしています。粗鋼生産の拡大に鉄鉱石の輸入は連動しませんが、原料炭の輸入は確実に拡大していく見通しではないかと考えます。

資料4 インド鉄鋼生産量予測  
政府計画では2030年約3億トンに到達



資料5は、原料炭のグラフになります。粗鋼生産量の増加に伴って、原料炭の需要も緩やかに増加していく見込みです。2021年は2億6,600万トンの海上荷動きが見込まれています。中でもインドの需要が旺盛で、2021年は前年比プラス9%の6,530万トンに伸びる見通しです。

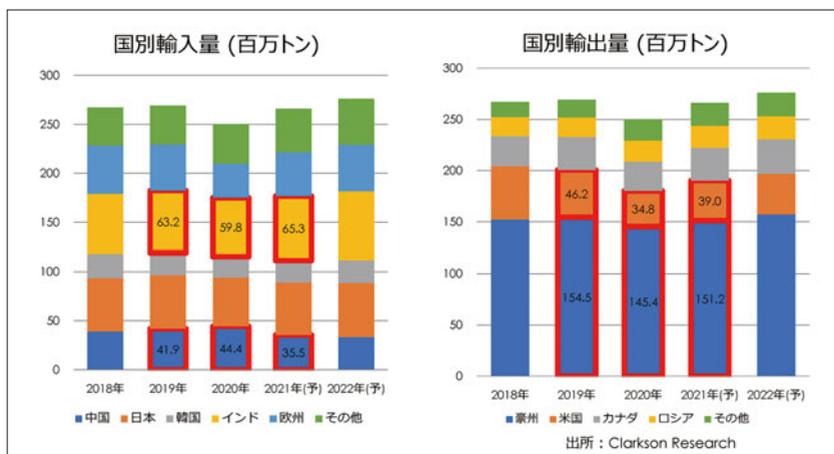
インドでは、高品位の原料炭がとれないため、今後も粗鋼生産量の拡大に伴い、原料炭の輸入は増えていく見込みです。2019年以降、インドが原料炭最大の輸入国となっていますが、他の輸入国を引き離していく状態が続いています。

一方、中国は、2020年は前年比プラス6%の4,440万トンを記録していますが、2021年は前年比マイナス20%の3,550万トンにとどまる見通しです。こちらは、豪州からの調達を減らしてモンゴルからトラック輸送に代替するなど、ドライ市況によってはマイナス要因になっています。

続いて、輸出国の動きです。輸出国は目立った動きは見られませんが、豪州は、中国からインド向けに輸出をシフトしているといったところが特徴的な動きとして見られます。

米国は、トランプからバイデンに指導者が代わりまして、国内の石炭産業

資料5 原料炭 2.66億トン（2021年）  
粗鋼生産量増加に伴い緩やかに増加、インドが需要を牽引



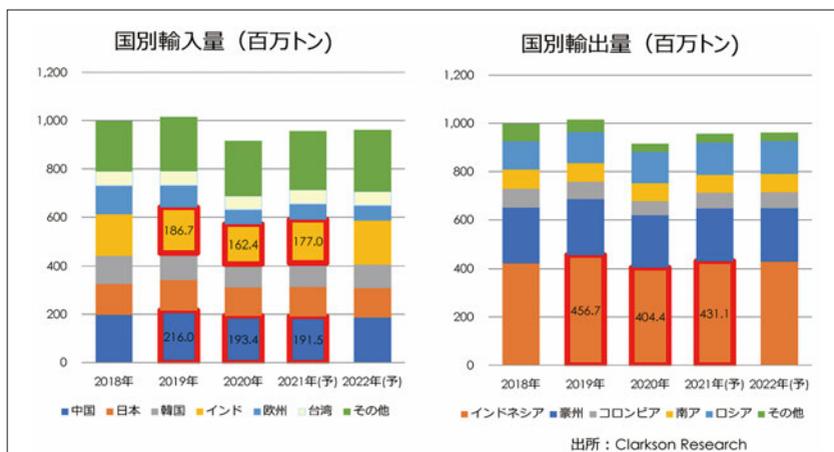
復興から気候変動政策重視に舵を切ると予想されます。米炭の需要が大きく伸びるといった期待感が薄まったのではないのでしょうか。

資料6は、一般炭の海上荷動きを示したグラフです。各国経済活動再開に伴いまして、一般炭需要も緩やかに増加していく見込みです。2021年は9億5,600万トンの海上荷動きが見込まれています。中でもインドの需要が旺盛で、2021年は前年比プラス9%の1億7,700万トンに伸びる見込みです。

中国は、2020年は前年比マイナス10%減の1億9,340万トン、2021年以降は漸減していく見通しとなっています。

続いて、輸出国ですが、インドネシアは、2020年は前年比マイナス11%減の4億440万トンの荷動きとなっていました。2021年は、前年比プラス7%増加の4億3,110万トンを見込んでいます。中期的には、インドネシアは国内需要増加に伴い減少していき、豪州・ロシアの供給量増加でバランスしていく見込みと予想しています。ただ、ロシアのアジア向け供給量増加が見込まれているのですが、こちらは鉄道輸送の対応がポイントになってくるかと考えます。長期的には脱炭素による石炭需要減少は避けられない道と思われます。

資料6 一般炭 9.56億トン（2021年）  
経済活動再開に伴い緩やかに増加、インドが需要を牽引



資料7は、穀物の海上輸送荷動きのグラフです。人口増加や生活水準の向上に伴いまして、安定的に需要が増加していく見込みとなっています。2021年は5億2,400万トンの海上荷動きが見込まれます。

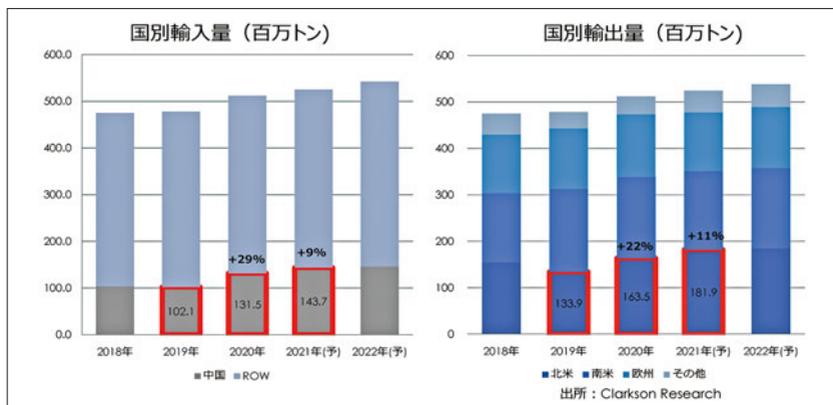
輸入国の中でも近年は中国の需要が旺盛で、2020年は前年比プラス29%増の1億3,150万トン、2021年は前年比プラス9%増の1億4,370万トンに伸びる見込みです。

輸出国ですが、北米（アメリカとカナダ）は、2020年は前年比プラス22%増の1億6,350万トン、2021年は前年比プラス11%増の1億8,190万トンの荷動きを予想しています。南米（ブラジル、アルゼンチン）は、2020年以降漸減を予想しています。

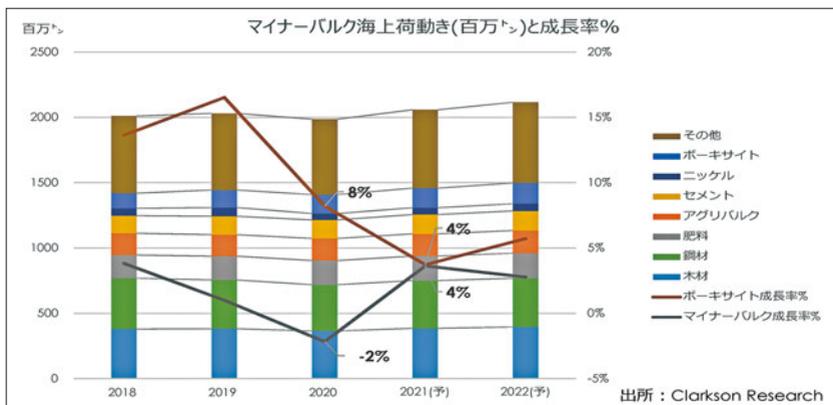
つまり、ここから何がわかるかと申しますと、中国の追加の需要は、北米、特にアメリカの供給で満たされている状態で、米中は政治的な対立が激化している反面、経済的な結びつきは切っても切れないことがよくわかるのではないのでしょうか。

資料8は、マイナーバルクの海上荷動きのグラフです。2020年は世界全体で19億8,600万トン、前年比マイナス2%減の荷動きとなりました。特に鋼材、木材、ニッケルの落ち込みが激しかった一年でした。

資料7 穀物 5.24億トン（2021年）  
人口増加と生活水準向上に伴い安定的に需要増加



資料8 マイナーバルク20.5億トン（2021年）  
成長著しいボーキサイト/鋼材・木材は復調へ



2021年は、世界全体で20億5,800万トン、前年比プラス4%増を見込んでいます。ボーキサイトが安定的に成長し、鋼材・木材は復調を見通しています。肥料は、2021年、前年比プラス1%増の1億8,800万トンで、緩やかな伸びを予想しています。

資料9は、第1部の需要編のまとめです。中国・インドの鉄鋼需要の増加や、各国の財政政策・景気刺激策等で、2021年度は需要・輸送量が回復する年と見込んでいます。こちらの表に示しているとおり、短期的には各コモディティ、右肩上がりの成長を見込んでいますが、長期的な予測

資料9 需要編まとめ

中国インドの鉄鋼需要増加や各国財政政策・景気刺激策で21年度は需要・輸送量が回復する

貨物	短期	長期
鉄鉱石	↗	→
粗鋼生産量	↗	→
原料炭	↗	→
一般炭	↗	↘
穀物	↗	↗
マイナーバルク	↗	↗

に目を向けてみますと、鉄鉱石や原料炭は横ばい、一般炭については脱炭素の動きが加速すると予想されますので減少、一方で、穀物、マイナーバルクは増加といったところを予想しています。

海上荷動きを大づかみするのに、「54」という数字を覚えておいていただければ、全体像がつかみやすいのかなと思っています。これは54億の「54」ですが、その内訳は、鉄鉱石が16億、石炭は一般炭と原料炭を合わせて12億、穀物が5億、残りのマイナーバルクが21億ということで数字を覚えておけば、大体の規模感・イメージがつかめるのではないかと思います。

## ■第2部 供給編

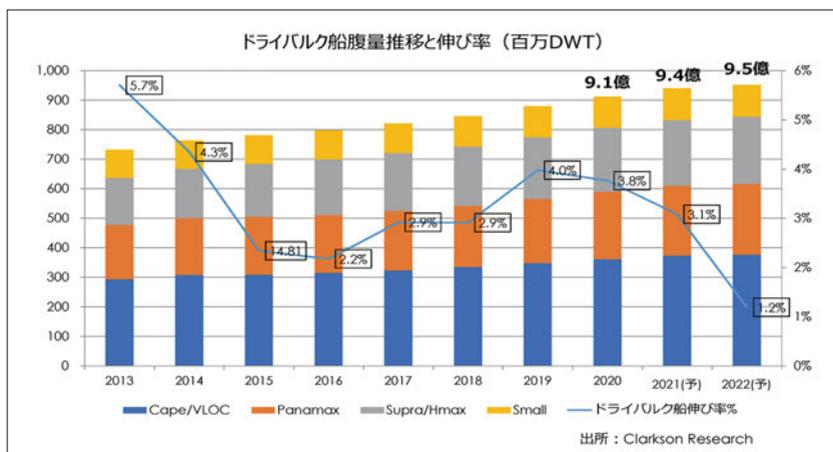
資料10は、ドライバルク船の船腹量を示したグラフです。積み上げ棒グラフは、年末時点の船腹量実績と見込みをあらわしています。2020年の実績は、前年比プラス3.8%増の9億1,210万DWT、2021年予想は前年比プラス3.1%増の9億4,020万DWT、2022年の予想は前年比プラス1.2%増の9億5,040万DWT、つまり伸び率は鈍化傾向が続くといったことがわかるかと思えます。

このグラフには示してないのですが、2022～2024年にかけて解撤の促進と新造船の供給圧力の低下が継続する見通しで、さらに船腹量が減少していく可能性が考えられます。

資料11のグラフは、2021年5月末時点の発注残の状況を示しています。2021

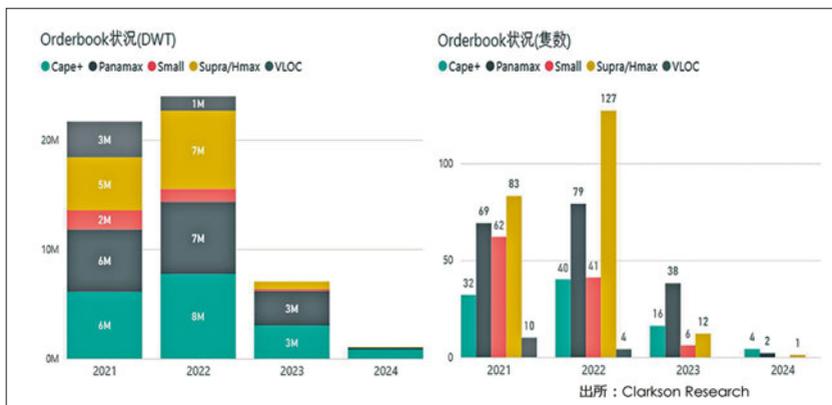
### 資料10 ドライバルク船腹量

新造船供給圧力は限定的、解撤促進で更に船腹量減少も



資料11 発注残状況（2021年5月末）

代替燃料対応の方向性が定まらず新造船発注様子が見が続く



年の竣工分は2,160万 DWT、256隻の発注残があり、2022年分は2,390万 DWT、291隻の発注残が数えられています。

2030年のGHG削減目標を視野に入れますと、既存の重油焚きを次々新造船として代替発注することは考えにくいのではないのでしょうか。水素やアンモニアといった代替燃料が脱炭素の本命になってくるかと思えます。ただし、それにとってかわるまでの期間一向こう10～20年間だと思えますが—については、LNGが現時点で一番有効なブリッジソリューションであると思われます。

建造コストが割高になることも、発注に二の足を踏ませている状況が続く一因になっていると思います。例えば、重油焚きのカムサ8万トンは、ざっくり35ミリオンドルとすると、これを3隻建造するのに105ミリオンドル必要になるのですが、これをLNG焚きのカムサに変えますと、船価が1隻当たり五十数ミリオンドルということで、2隻つくってちょうど等価になるのかなといった具合です。今まで重油焚きで3隻建造できた予算で、LNG焚きが2隻しか建造できないといったところが、新造船発注を控える状況をつくっているかなと思います。

また補ガス地、LNG燃料を供給する地域のインフラが整ってないといったところも、発注が進んでない要因の一つになっているかと思えます。

資料12 竣工状況——17.37百万DWT・193隻（2021年5月末）  
 新造船供給圧力は限定的，2021年竣工量は2018年レベルと予測



資料12は、竣工状況を示したグラフで、2021年5月末時点の竣工した隻数とDWTをあらわしたものです。2021年5月末時点で1,737万DWT，193隻が竣工済です。船型別に申し上げますと、ケープと鉱石船が920万DWT，43隻，パナマックスが410万DWT，49隻，スプラマックス，ハンディマックスが290万DWT，52隻，スモールハンディが120万DWT，49隻が竣工済となっています。

2021年の年末までの竣工量予測を赤枠で囲っています。バルカー全体で約3,100万DWT，約360隻の竣工量を見込んでいます。船型ごとの内訳は右のグラフのとおりで，パナマックスについては94～95隻程度の竣工量を予測しています。

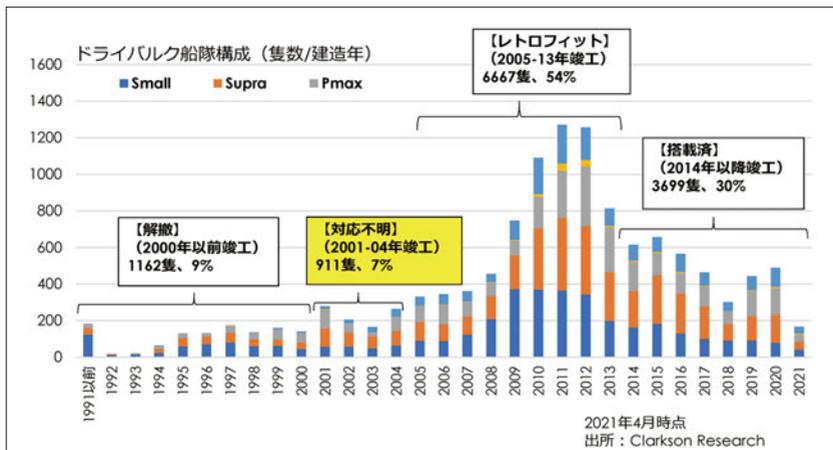
資料13は、解撤された隻数とDWTを積み上げの棒グラフであらわしたものです。2021年5月末時点ですが，ケープ，鉱石船が280万DWT，11隻，パナマックスが36万DWT，5隻，スプラマックス，ハンディマックスが60万DWT，13隻，スモールハンディが41万DWT，15隻が解撤済となっています。スポットの運賃市況，備船市況が好調で，解撤数は伸び悩んでいるといったところです。

資料14は，2021年4月時点の1万DWT以上のバルカーの船齢構成を示したグラフです。隻数が12,439隻ございます。ここに示しているのは，バラスト水管理条約に解撤促進効果があるのかどうかを竣工年でシミュレーション

資料13 解撤状況－4.1百万DWT・44隻（2021年5月末）  
 運賃・備船市況が好調で解撤件数は伸び悩む



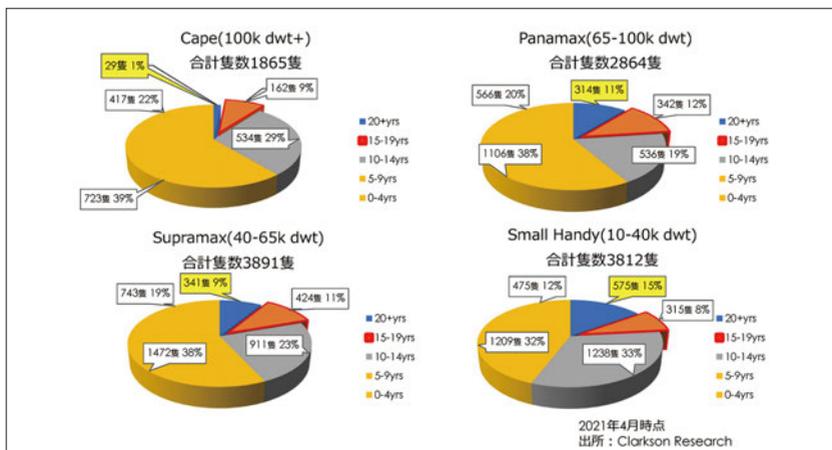
資料14 船齢構成①12439隻（2021年4月）  
 ーバラスト水管理条約に解撤促進効果はあるか？



したものです。2000年以前に竣工した1,162隻については、2022～2024年にかけて解撤される前提と見えています。2005～2013年に竣工した6,667隻については、2021～2024年の次回IOPP更新に合わせて、バラスト水処理装置をレトロフィット工事すると予測しています。また2014年以降に竣工した3,699隻については、基本的に竣工時から搭載済と見えています。

## 資料15 船齢構成②

—中小型バルカーの20%以上が船齢15歳以上でBWTS搭載期限が鍵となる



そうすると、対応不明もしくは対応が分かれるのが2001～2004年に竣工した911隻になるのですが、昨年あたりから解撤に回る船もあれば、生き船売船されて、買い手がバラスト水処理装置をつけてトレーディングに使っているケースも見られています。

資料15のグラフは、先ほどの船齢構成を船型ごとに分けて表示したものです。大型バルカーほど解撤余力が乏しいことがわかるかと思います。中小型バルカーについては、20%以上が船齢15歳以上で、今後バラスト水処理装置搭載期限を迎えるので、こういった船が解撤されるのかどうか、需給バランス改善に大きく影響してくるのかなと予測しています。

続いて、第2部 供給編のまとめです。まず好材料としては、新造船供給圧力は限定的であること、バラスト水処理装置の搭載期限をにらみ、解撤活動が促進される可能性があること、不経済船や低品質船の解撤が加速化するのではないかといたところが考えられるかと思います。

一方、懸念材料ですが、足元のスポット傭船市況や中古船市況の高止まりで、船主の解撤意欲が後退している、あるいは自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大といったところが考えられるかと思います。

### ■第3部 市況見通し

資料16は、需給ギャップの見通しを示したグラフです。これは、線グラフが上に向いているほど供給が需要を上回っていき、需給ギャップ率が広がっている、つまり需給バランスが悪いという見方になります。

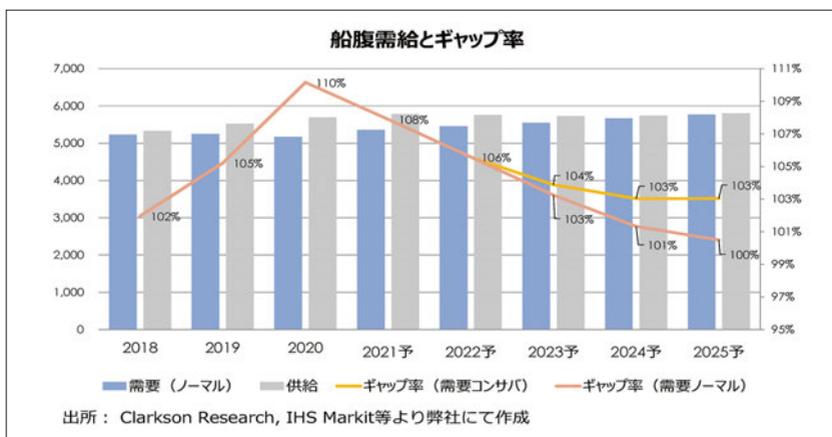
2022年までは、Clarksonの海上荷動き予測を用いています。2023年以降は、前年荷動きにIHS Markit社の需要成長率予測を掛け合わせたもので作成しています。供給量は、弊社独自の算定方法・根拠を用いまして、ばら積み船の輸送キャパシティを数値化したものです。

2019年は、船腹供給の伸び率に対し、バーレのダム決壊事故等の影響で海上荷動き需要が伸び悩みまして、ギャップ率は105%に拡大しています。2020年は、新型コロナの影響で需要が大幅減少しまして、ギャップ率はさらに拡大し110%。

2021年は、前年からの振り戻しで、海上荷動き需要が大きく回復しまして、供給圧力も限定的、ギャップ率は108%に改善すると見込んでいます。

2022年は、コロナ前の需給ギャップ率の水準まで回復する見通しをしています。2023年以降は、海上荷動き需要をノーマルとコンサバティブの2つの

資料16 需給ギャップ見通し



ケースを想定していきまして、コンサバケースにおいては、鉄鉱石や一般炭の需要が漸減する前提のため、ギャップ率は横ばいと予測しています。

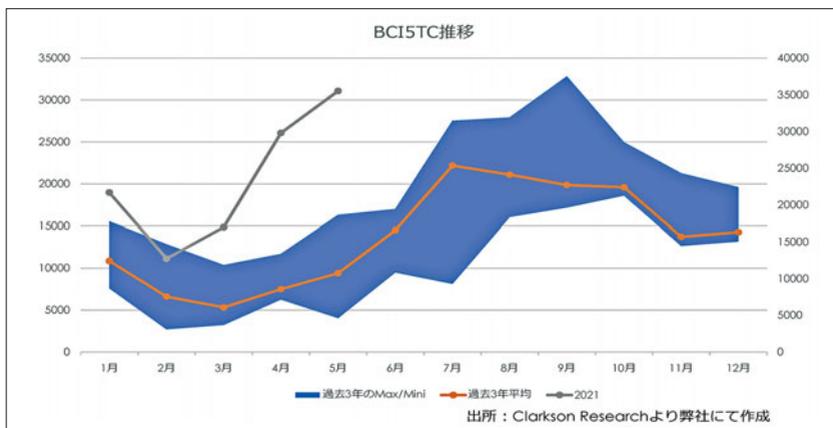
資料17のグラフは、バルチックインデックスから、ケーブサイズの主要5航路の月間平均備船料の推移を示したものです。青色の帯グラフが2018～2020年の過去3年間の市況の上限と下限を示したもので、オレンジ色の線グラフは過去3年間の平均値を示したもので、グレーの線グラフは2021年の実績です。

過去3年平均や過去3年間の上限を大きく上回る市況が、2021年の年明けから継続していることがわかるかと思えます。足元6月の市況は、ぐずついた時期もございましたが、例年サードクォーター、7～9月は好市況が期待できる時期であるため、短期的に市況が反転すると予想しています。

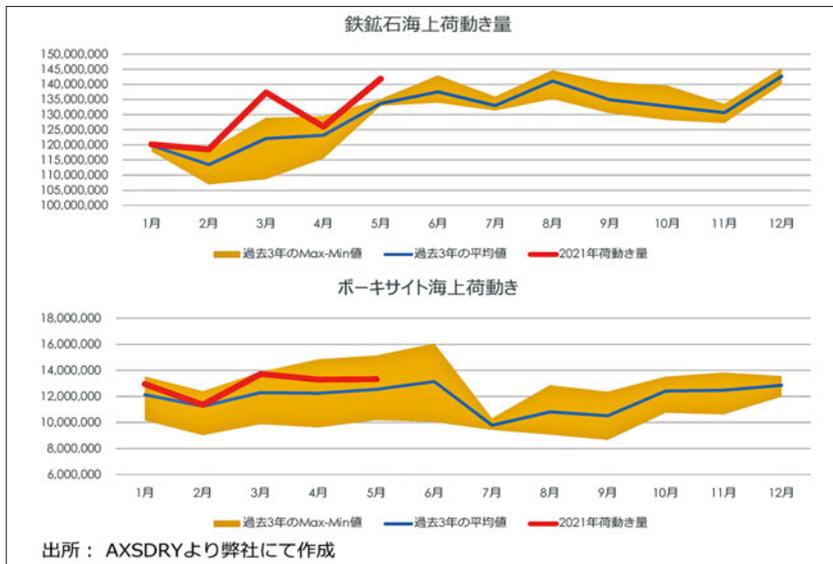
資料18は、ケーブ船の市況高を下支えしている要因を追いかけてみました。鉄鉱石の荷動きの月次データを示したものです。オレンジ色の帯グラフは過去3年間2018～2020年の荷動きの上限と下限を示したもので、青色の線グラフは過去3年間の平均値、赤色の線グラフは2021年の実績です。

こちらをご覧くださいと、過去3年間の平均や過去3年間の上限を大きく上回る鉄鉱石の荷動きが、2021年の年明けから継続していることがわかるかと思えます。また近年、ポーキサイトをケーブ船で運ぶ需要が増えているの

資料17 バルク海運市況推移



資料18 荷動き状況（鉄鉱石・ボーキサイト）



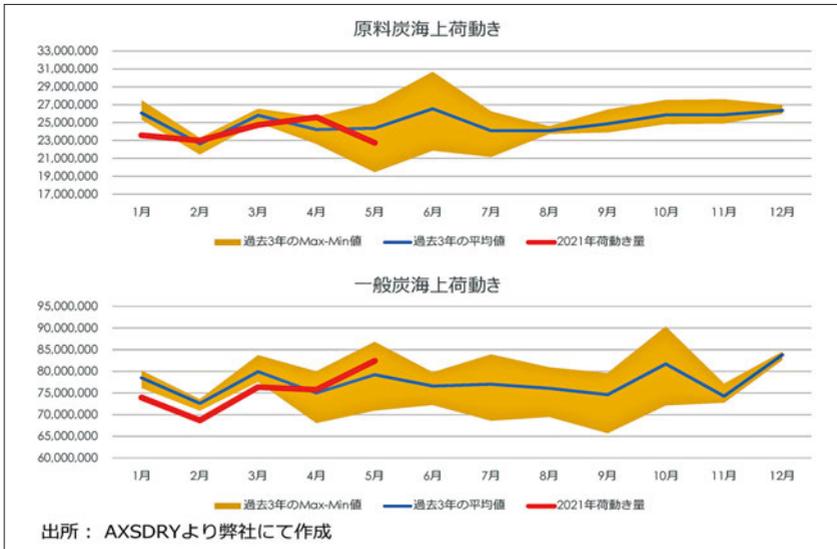
ですが、ボーキサイトのグラフについても同様のことが見てとれるかと思えます。

続いて、資料19は、原料炭の荷動きを月次データで示したものです。同じくオレンジ色の帯グラフが過去3年間の荷動きの上限と下限を示したものの、青色の線グラフは過去3年間の平均値、赤色の線グラフは2021年の実績です。月ごとに凸凹が見られますが、過去3年間の平均を下回るか、同等のレベルにて推移していることが確認できるかと思えます。荷動きが大きな伸びを示していない、という特徴が見られます。

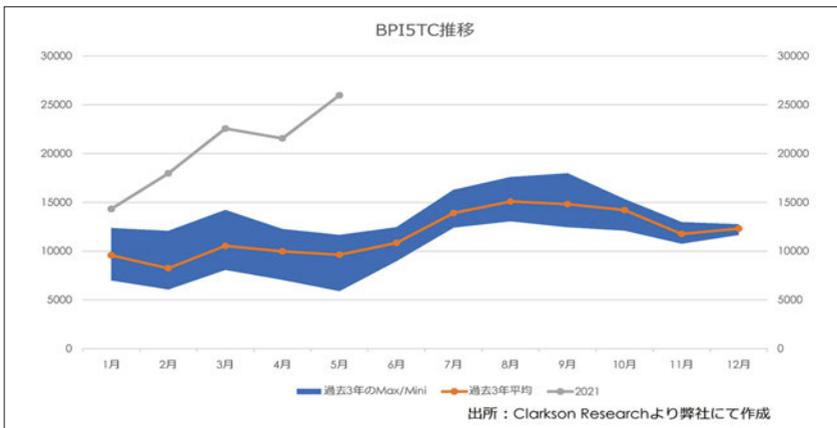
下は一般炭の荷動きです。こちらも需要が弱いスタートを切ったわけですが、セカンドクォーター、4～6月に入って3年平均を若干上回るころまで回復してきていることが見てとれるかと思えます。

次に、資料20は、バルチックインデックスから、パナマックスの主要5航路の月間平均備船料の推移を示したものです。青色の帯グラフが過去3年間の市況の上限と下限を示したものの、オレンジ色の線グラフが過去3年間の平

資料19 荷動き状況（原料炭・一般炭）



資料20 バルク海運市況推移①

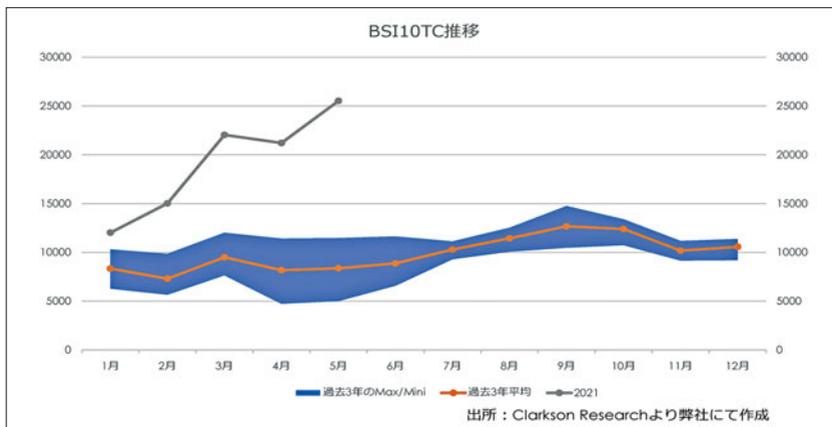


均値、グレーの線グラフは2021年の実績となります。

過去3年平均や過去3年間の上限を大きく上回る市況が、2021年の年明けから継続していることがわかるかと思えます。

続いて、資料21は、バルチックインデックスから、スプラマックスの主要

資料21 バルク海運市況推移②



10航路の月間平均傭船料の推移を示したものです。パナマックス、ケープと同様に、過去3年平均、過去3年の上限を大きく上回る市況が、2021年の年明けから継続していることがわかるかと思えます。

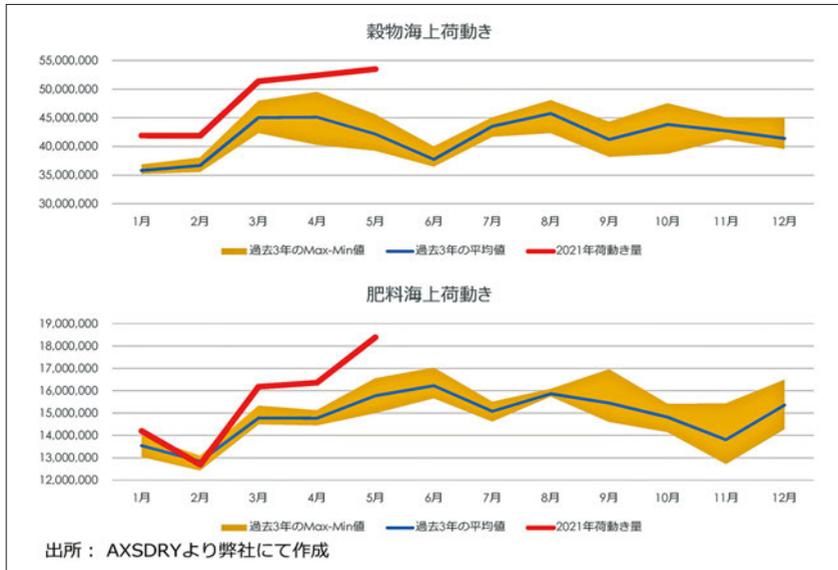
資料22は、中型船の好市況を支えている要因を追いかけたものです。穀物の荷動きを月次データで示してあります。オレンジ色の帯グラフが過去3年間の荷動きの上限と下限を示したもので、青色の線グラフは過去3年間の平均値、赤色の線グラフは2021年の実績となります。年明けから高水準の穀物荷動きが確認できるかと思えます。

下のグラフは、マイナーバルクに属するのですが、皆様に関係のある肥料を抜き出してみました。穀物と同様に、年明けから高水準の荷動きが確認できるかと思えます。

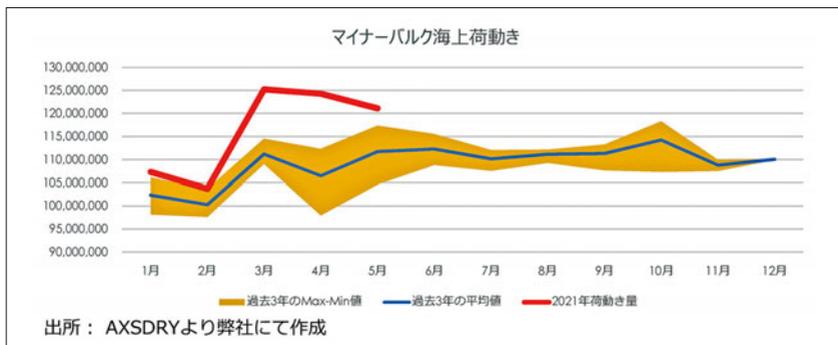
資料23は、マイナーバルク全般の荷動きの月次データを示したものです。オレンジ色が3年間の荷動きの上限と下限、青色の線グラフは過去3年間の平均値、赤色の線グラフは2021年の実績です。こちらも、年明けから高水準のマイナーバルクの荷動きが確認できるかと思えます。

続いて、海運市況の見通しのまとめです。1つは、前年比で輸送需要が大きく回復しています。鉄鉱石、穀物、マイナーバルクなどで需要の回復が大

資料22 荷動き状況（穀物・肥料）



資料23 荷動き状況（マイナーバルク）



大きく見られたことがわかったかと思えます。

2つ目、新造船発注の手控えと解撤が促進することで、今後の見通しとしては、需給ギャップが改善していくのかなと考えています。

3つ目、コロナ禍からの回復によりまして、目先2～3年の市況は回復基調で推移すると予測しています。

下の表（略）は、2021年度（4月から翌年3月まで）の主要航路の平均船料に関して、弊社の成約部隊にアンケートをとって集計したものです。弊社の公式見解とは異なりますが、参考までに載せました。

テープは2万～3万7,000ドル、中央値は2万5,000ドルでした。同じ成約、営業担当者でもこれだけ意見が割れました。予測が非常に難しい一年なのかなと実感しています。

パナマックスは下限が1万5,000ドル、上限が3万ドルで、中央値が2万1,250ドル、ハンディマックスは下限が1万4,000ドル、上限が2万8,000ドル、中央値が2万ドル、スモールハンディは下限が1万ドル、上限が2万7,000ドル、中央値が1万8,000ドルといったところでした。参考までにお伝えいたしました。

## ■第4部 弊社環境対応ご紹介

第4部は、弊社の環境対応をご紹介させていただきながら、海運業界が直面する環境課題について、皆様と共有させていただければと思います。

まず、資料24をご覧ください。こちらSDGsは毎日、目にしない日はないのではないのでしょうか。これは17個あるのですが、スラスラ言える方はいらっしゃいますかね？ 私もよく目にするのですが、なかなか覚えられなくて、

あるとき、娘から覚え 資料24 SDGs [持続可能な開発目標]  
歌を教えてもらいました。幾つかパターンがあるそうで、きょうは、「きらきら星」のリズムで覚えられると教えてもらったので、ご紹介したいと思います。

お金ない、ご飯ない、病気になっちゃう、勉



強して、ジェンダーして、きれいなお水、エネルギー、仕事で、技術革新、公平、よいまち、よい利用、気候、海、陸、守って平和に、みんなでやろう、SDGs。

これを「きらきら星」のリズムで歌いながら覚えられると娘に教わりました。皆さんも、お風呂に入りながらも鼻歌を歌ってみてもらえばと思います。

今なぜ我々はSDGsに目を向けなければいけないのかと考えますと、地球環境を守ることはもちろんそうですが、この対応を怠ると、一企業として将来存続できないから、ではないでしょうか。

我々海運業界が関係する項目は、7番のエネルギー、13番の気候変動、14番の海洋資源の保全といわれることが多いのですが、実は1番の貧困、2番の飢餓、3番の健康、9番のインフラ構築、11番の持続可能な都市の実現もかかわりが出てくると考えます。

次に、資料25ですが、こちらの記事は、Global Maritime Forumのプレス資料25 Global Maritime Forumのプレスリリースから



リリースからの引用で、脱炭素化を実現するために海運業界全体で最大1兆6,000億ドルの投資が必要と試算されたと発表がありました。大変大きな金額で、海運業界のみならず産業界全体で、この試算を

受けとめて考えていく必要があるのではないかと考えています。

続いて、資料26は、パリ協定をベースに、IMOで採択されたGHG削減目標です。2030年にCO<sub>2</sub>排出効率を2008年比で40%改善し、2050年にGHG排出総量を2008年比50%削減するというものです。

言葉だけ聞いてもわからないと思いますので、次の資料27で視覚的に説明したいと思います。一番上の黒の実線は、2008年と同じアズイズの排出効率

でこのまま事業を継続した場合のCO<sub>2</sub>排出量を示しています。これらを省エネ技術や運航効率化による削減を通じて、2030年にCO<sub>2</sub>の排出効率を40%以上、削減したレベルが青色の点線となります。

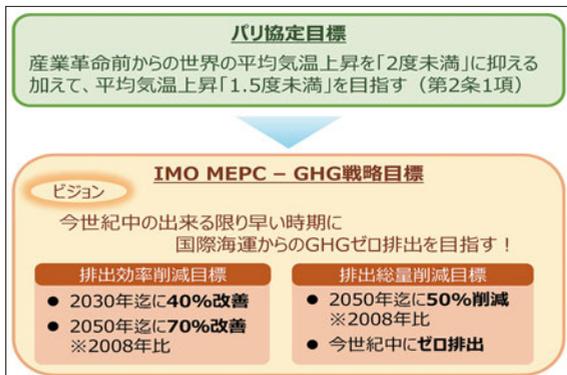
そこからさらに次世代燃料等による削減を通じて、2050年にCO<sub>2</sub>排出総量の50%以上を削減したレベルが緑色の帯グラフのこの角の辺りになりまして、2008年比の総排出量が半分減っているイメージがわかるかと思います。

最後に今世紀中なるべく早い段階で排出ゼロを目指す、ということが視覚的にとらえられたかと思えます。2050～2100年の間ですが、今世紀中に排出ゼロを目指す。

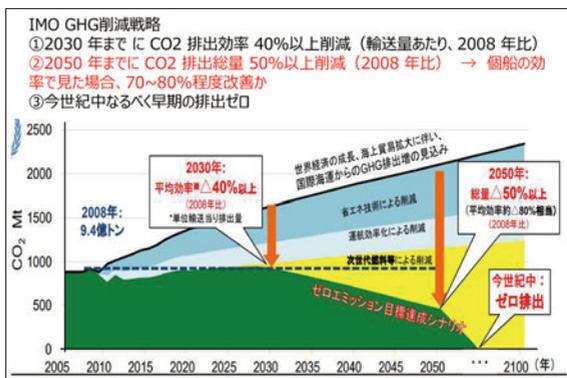
海運業界は、こういった環境課題に直面しています。

弊社は、昨年6月に“K” LINEビジョン2050改訂版を発行しました(資料28)。今回の見直しにおいては、脱炭素化と環境影響の限りないゼロ化の2軸で整理を行いまして、2030年の中期マイルストーンの設定と、2050年の目標の再整理を行いました。時間の制約上、本日この場ですべてご説明するのは割愛させていただきたいと存じますが、2つの環境フラッグシップの導入開

資料26 海運産業が直面する環境課題①



資料27 海運産業が直面する環境課題②



資料28 “K” LINE 環境ビジョン2050改訂版

2019年 中期マイルストーン	2030年 低炭素化/環境影響低減	2050年 脱炭素化/環境影響ゼロ化
重大事故ゼロの維持	油濁事故ゼロを含む船舶運航における海洋・大気への環境影響低減	・油濁事故ゼロ ・船舶運航における海洋・大気への環境影響の限りないゼロ化
2011年比CO2排出効率 10%減 ▶2015年度達成	CO2排出効率 2008年比50%改善	GHG排出総量50%減 (CO2排出効率 2008年比70%改善)
環境フラッグシップの建造と実証 ▶2016年自動車運搬船 Drive Green Highway竣工	新燃料や設計改善、効率 運航強化によりCO2排出効率70% 改善を目指すフラッグシップの導入	未踏技術によるゼロエミッションフラ ッグシップの導入開始
LNG燃料船の導入 ▶2021年LNG燃料炎き自動車運搬 船Century Highway Green 竣 工	社会の低炭素化に向けた 新しいエネルギー輸送・供給の推進	社会の脱炭素化を支える新エネル ギー輸送・供給の担い手となる
	社会環境改善に向けた対話活動の強 化	・社会の環境改善支援 ・生態系保護の業界トップ

始とその普及を  
2030年中期マイ  
ルストーンに織  
り込みまして、  
2050年の目標に  
もそれぞれ対応  
するアクション  
プランとして追  
加した点が、大

きな特徴と言えるかと思えます。

また2030年中期マイルストーンでは、IMO 目標を上回る CO<sub>2</sub> 排出効率改善 50%を掲げていまして、その実現に向けて、後ほどご紹介する自動カイトシステムを導入するなど、具体的な取組みを進めています。

この資料（略）は、それぞれの目標に対するアクションプランをまとめたものです。ここに掲載しているものは一部ですが、“K” LINEグループ全体で一丸となって環境影響低減に向けた取組みを進めていきたいと考えています。

2030年までのアクションプランとして、CO<sub>2</sub> 排出効率70%改善を目指すフラッグシップの導入、自動カイトシステム Seawing の実証と普及、LNG 燃料輸送・供給支援の拡大を具体的なアクションプランと考えています。

2050年までのアクションプランとしては、未踏の技術によるゼロエミッションフラッグシップの導入開始、新エネルギー・サプライチェーン事業への参入、CO<sub>2</sub> 回収・再利用推進に向けた貢献といったところを考えています。

続いて、資料29は、近年の弊社の取組みをピックアップしました。すべてご紹介できませんが、期近な取組みから一部ご紹介させていただきます。

LNG 燃料供給事業が開始したことや、LNG 燃料船の竣工が続いています。また自然エネルギー利用のカイトシステムの搭載決定や、世界初となる船上でのCO<sub>2</sub> 回収試験の実施といったユニークな取組みも行っています。

川崎近海汽船殿と洋上風力発電向けの作業船事業会社、ケイライン・ウインド・サービス株式会社の営業を開始いたしました。洋上風力発電事業の開発、建設、操業等にかかわる作業の支援を通じて、社会のカーボンニュートラル化に向けた洋上風力産業の発展に寄与することを目指しています。

2030年の中期マイルストーンは、いわば超低炭素化と言い換えられるかと思えます。弊社では、LNG燃料、カイト等の推進補助装置、減速航海の深度化、CO<sub>2</sub>の回収などを用いまして、現在、実用可能な技術を集積して、超低炭素運航を目指しています（資料30）。

その低炭素化のキーデバイスとして弊社が着目したのが、エアバス社の子会社である Airseas社が開発した、自動カイトシステムの Seawing です。Seawing は、本船の船首部に搭載され、ブリッジからの操船で展張し、風力を利用して本船の推進力を補助するものです。

航路、船種、船速などの条件にもよりますが、これによりまして20%以上のCO<sub>2</sub>排出削減効果があり、大型バルクキャリアの場合は、1隻当たり年間5,200トンのCO<sub>2</sub>削減効果が期待できます。また燃料使用量削減に伴いまして、

資料29 環境に配慮した事業活動



資料30 低炭素化への取り組み

- 2008年比CO<sub>2</sub>排出効率50%改善
- ～IMO目標である40%改善のさらに上を目指す～



SOx／NOx／PMも同時に削減が可能となります。

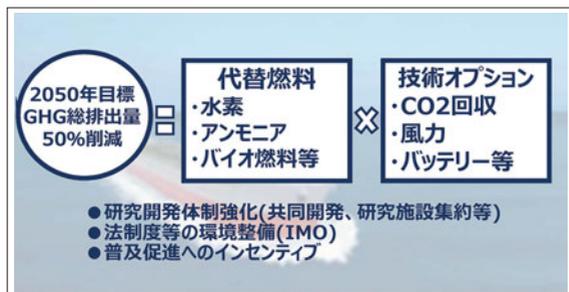
このシステムの最大の特徴は、船種を問わずに搭載が可能という汎用性の高さがあります。昨年8月にはClass NKより設計に関する基本承認AIPを取得していきまして、実際の船舶への搭載、運用を目指して着実にプロジェクトを進めています。

資料31は、IMOの2050年総排出量の半減から、最終的な目標である今世紀中のなるべく早いタイミングでの排出ゼロエミッションの目標ですが、これは脱炭素化と言い換えることができると思います。脱炭素化に向けまして、CO<sub>2</sub>の回収等の技術オプションに加えて、水素、アンモニアなど代替燃料の導入を組み合わせ、2050年の目標であるGHG総排出量50%減を目指しています。

この中で弊社が有望と見ているものは、水素、アンモニア、バイオ燃料を含む代替燃料です。これらを主軸とし、さらにCO<sub>2</sub>回収、風力の利用、バッテリーの利用等の技術オプションを掛け合わせることで、完全な脱炭素化の達成が可能であろうと考えています。

続いて、その他海洋産業の取組みとして、幾つか紹介したいと思います。燃料電池の利用、主機／補機の燃費の改善、自律運航の研究等が進められています。またGHGの排出権を市場で購入するという経済的な市場メカニズムを活用した取組みも、IMOの場で議論が進められています。

資料31 脱炭素化への取り組み  
—IMO 2050年総量半減目標達成  
～今世紀中のゼロ排出を目指して～



2050年の目標達成においては、技術的アプローチと減速等の運航アプローチ、市場メカニズムを用いて進めていく、といったことが考えられるかと思えます。

最後に、第4部の環

境課題のまとめとして、3つお伝えしたいと思います。

1つ目は、重要な社会インフラである海事産業におけるGHG削減の達成においては、さらなる減速航海が必要となる点、物流の変化へのお客様のご理解を賜りたいと存じます。

2つ目は、先ほどの記事でもご紹介したように、環境規制対応には多額の費用が発生いたします。これは海洋産業だけではなく、産業界全体、受益者による適切なコスト負担につきご理解を賜りたいと存じます。

3つ目は、お客様ご自身もサプライチェーン全体で環境対応という課題に直面されていることかと思えます。海上輸送やその他の周辺事業領域におきまして、皆様の課題解決にお役に立つことが弊社の責務だと感じています。弊社のユニークな営業パーソンたちに、どんなことでも構いませんのでご相談いただきたく存じます。

資料32の「青い海を明日へつなぐ」というメッセージは、海上貨物輸送を行う船会社の使命ととらえて、「K」LINE環境ビジョン2050の中でうたわれているものです。海運

事業の根幹を支える安全運航管理体制のもとで海上輸送を行い、人々の豊かな暮らしに貢献し、青く美しい海を我々の子どもや孫、その次の世代に伝えていくため、持続可能な未来の実現に寄与したいと考えています。

資料32 「青い海を明日へつなぐ」



ご清聴ありがとうございました。

編注：本文資料は全て、川崎汽船(株)ドライバルク企画調整グループ提供です。  
また、質疑応答は誌面の都合により、割愛させていただきました。

# 理事長新任あいさつ



飼料輸出入協議会

理事長 白木 友宏

(丸紅(株)食料第二本部 穀物油糧部長)

この度、飼料輸出入協議会理事長を拝命いたしました、丸紅株式会社の白木友宏でございます。会員各社の皆様と、飼料・畜産・水産業界の発展のために貢献できる協議会を目指し、精一杯努力してまいり所存です。

今日、新型コロナウイルス感染症が終息しておらず、世界及び日本国内の消費や経済に引き続き大きな影響が未だ残る状況です。また2018年には日本国内において26年ぶりに豚熱が発生。昨シーズンには鳥インフルエンザも猛威をふるい、飼料・畜産業界は大きな痛手を負いました。直接的、間接的に影響を受けられた方も多くいらっしゃると思いますが、一日も早く鎮静化・正常化することを強く祈念しております。

当協議会の主要取扱原料である穀物に目を向けますと、主要生産地における天候不順に加え、昨年度後半からの中国の大量成約を主要因とした需給ひっ迫感は根強く、穀物価格は8年ぶりの高値圏にて推移しております。海上運賃も2010年以来の価格となる高値を付けており、輸入原料コスト増加という厳しい状況が続いております。需要面、供給面いずれも厳しい状況にある中、令和2年度（2020年

度) 配合飼料・混合飼料 生産量においても2,400万トンを超え, また前年度比100.00%と減少することなく, 【エッセンシャル・ビジネス】として社会を支える重要な産業であることを再認識いたしました。皆様の努力に改めて御礼申し上げる次第です。

かように難しい環境下であっても, 飼料・畜産・水産業界においては新しい技術の導入や機動的な対応によりそれを乗り越えられることを証明し, 更に成長していけると思っております。様々な社会課題に対して解を見出し, 持続可能な姿へと共に発展していきましょう。当協議会は「安心」「安全」な原料の安定供給という役割を果たしてまいりたいと思います。引き続き関係各所皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう, よろしくお願い申し上げます。

#### <プロフィール>

- 1996年 4月 丸紅株式会社入社
- 1998年 4月 同社 飼料・油脂原料部 飼料穀物課
- 2006年 2月 同社 丸紅米国会社 (ニューヨーク)
- 2008年10月 同社 穀物部 穀物課
- 2013年 4月 同社 穀物第二部 穀物マーケティング課長
- 2016年 4月 同社 MARUBENI GRAIN & OILSEEDS TRADING  
ASIA PTE. LTD (シンガポール)
- 2018年 4月 同社 穀物海外事業部 部長代理
- 2019年 4月 同社 穀物油糧部 副部長
- 2020年 4月 同社 穀物油糧部長

## 令和3年度新役員，専門委員会の委員決まる

飼料輸出入協議会では，さる5月24日，令和3年通常総会をWEB会議にて開催し，提出議案は全て承認され，引き続き開かれた理事会において新役員並びに専門委員会の委員長，委員が以下の通り選出された。理事長には，白木友宏丸紅(株)穀物油糧部長が選出された。

7月1日現在の役員は以下の通り。(社名アルファベット順)

### 役員

理事長	白木 友宏	(丸紅(株) 穀物油糧部長)
副理事長	立川 義大	(伊藤忠商事(株) 飼料・穀物部長)
副理事長	永田 義典	(三菱商事(株) 穀物飼料部長)
副理事長	佐野 豊	(三井物産(株) 食糧事業部長)
副理事長	萬田 義人	(豊田通商(株) 穀物事業部長)
会計理事	山口 佳仁	(双日(株) 食料・水産部長)
理事	山口 秀三	(カーギルジャパン(同) 飼料穀物部長 兼 蛋白飼料部長)
監事	中嶋 潤	(兼松(株) 執行役員 食糧副部門長 兼 穀物飼料部長)
専務理事	姫野 健二	(飼料輸出入協議会)

### 専門委員会

#### 1. 総務委員会

委員長	伊藤忠商事(株)
委員	カーギルジャパン(同) 兼松(株) 丸紅(株) 三菱商事(株) 三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

#### 2. 主原料委員会

委員長	三井物産(株)
副委員長	豊田通商(株)

副委員長 三菱商事(株)

委員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株)  
丸紅(株) 双日(株)

### 3. 副原料委員会

委員長 三菱商事(株)

委員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)  
三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

#### 分科会

#### 分科会長

植物蛋白・糟糠類分科会

三井物産(株)

動物蛋白分科会

兼松(株)

粗飼料分科会

双日(株)

### 4. 編集委員会

委員長 豊田通商(株)

委員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)  
三菱商事(株) 三井物産(株) 双日(株)

### 5. 安全性委員会

委員長 三井物産(株) (主原料委員長)

三菱商事(株) (副原料委員長)

委員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)  
双日(株) 豊田通商(株)

## 私のプロフィール

### 姫野 健二

(飼料輸出入協議会 専務理事)



本年5月の総会にて専務理事に選出され、7月に就任いたしました。

1987年4月に丸紅に入社し、最初に配属されたのは輸入運輸部輸入運輸室でした。会社が輸入するほぼ全ての商品の輸送、通関管理を行う部署ですが、その中で飼料穀物を中心とした穀物全般、特に飼料穀物と油糧を担当しました。

輸入運輸室で3年を経て、飼料部飼料穀物第一課（コーン）の部署に異動しましたが、この異動の前後にフィードトレード誌の「汽車旅への招待」を寄稿しました。異動直後にご挨拶にお伺いしたお客様の中には、「どこかで会ったことがあると思ったら、フィードトレードに載っている人だ!」と言われたこともあり、フィードトレード誌の影響力の大きさに驚きました。

93年9月からの約10年は油脂原料の世界にいました。2度の海外駐在もこの期間でしたが、大連にいた2年間は、大豆粕の販売にも携わっておりました。カナダのウイニペグでの駐在時には、自宅にいてオーロラを見ること、最低気温が氷点下42℃という寒さを経験しました。その後、麦類の世界に入ります。飼料用麦類のSBSの初期でした。油脂原料、麦類の世界にいても、飼料業界とはつながりがあったことと、今回、JFTAでお世話になることは、今になって縁なのかなと思います。

2005年からは、トレードの世界を離れ、グループ会社の支援が仕事の中心になりました。そして2011年からはサイロ会社に出向し、2社で合計10年過ごして現在に至っています。同じお客様でも、商社としてお付き合いするのと、サイロ会社としてお付き合いするのでは、距離感が微妙に異なることを

---

経験しました。後半の8年間は釜石の現場にいました。現場の生の声、監督官庁とのやり取りなど、東京の事務所にいたら経験できないことを知ることができたのが印象的です。

この度、ご縁があり、このような立場になりました。微力ながら、業界発展のために尽くす所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

#### <プロフィール>

- 1964年9月 愛知県生まれ
- 1987年3月 慶應義塾大学経済学部卒業
- 1987年4月 丸紅株式会社 輸入運輸部輸入運輸室配属
- 1990年4月 飼料部飼料穀物第一課
- 1993年9月 油糧部油脂原料課
- 1998年4月 日清製油出向（大連）
- 2000年4月 油脂部油脂原料課
- 2002年4月 Agricore United出向（カナダ／ウイニペグ）
- 2003年4月 食糧砂糖部麦課（課長）
- 2005年4月 飼料スターチ原料部
- 2011年4月 パシフィックグレーンセンター出向（取締役業務部長）
- 2013年6月 釜石グレーンセンター出向（代表取締役社長）
- 2021年6月 丸紅退職

## “DAIZ・ミラクルミート”のご紹介

兼松食品株式会社



今回は兼松グループが自信を持ってお薦めする次世代植物肉「ミラクルミート」をご紹介します。

### ■はじめに



2020年12月、兼松株式会社・兼松食品株式会社は植物肉スタートアップ企業のDAIZ株式会社（以下、DAIZ社）と資本業務提携を締結しました。

### ■DAIZ社・ミラクルミートについて



DAIZ社は、日本・米国・欧州において特許を取得した複数の特殊製法を用い、食肉の持つ風味豊かな「味・食感」を豆類で再現する次世代フードテック企業です。

その技術は「大豆」のみならず、各種豆類の持つポテンシャルを最大限に引き出し、各畜種を再現します。

「落合式ハイプレッシャー法」で開発された「ミラクルミート」は、日本発のスーパーフードとして、また日本が世界に誇る最新フードテックとして、様々なカテゴリーの商品への技術応用が期待されております。

## ■美味しさの秘密

ミラクルミートを用いた加工品は既に多くのお客様より「従来の植物肉のような臭みがない」「お肉としか思えない」「本当に美味しい」との高い評価をいただいております。

従来の大豆タンパクとミラクルミートとの違いは大きく以下の2点があり、ミラクルミートを用いることで、本物の畜肉を用いて加工したような風味の再現が可能となります。

### 【特徴①】原料に丸大豆を使用

これまでの植物肉の多くは、大豆搾油後の残渣物である脱脂加工大豆を主原料としていましたが、DAIZ社の植物肉「ミラクルミート」は原料に丸大豆を使用しています。さらに、オレイン酸リッチ大豆を使用することで、大豆特有の臭みを無くし、異風味を低減しています。

### 【特徴②】旨味や栄養価を増大、肉の食感を再現する独自技術

味や機能性を自在にコントロールするコア技術「落合式ハイプレッ



パティにミラクルミートを用いたハンバーガー

### ミラクルミートの製造工程



#### 原料 高オレイン酸大豆

オレイン酸リッチ大豆を使用することで、大豆特有の臭みをなくし、異風味を低減。



#### 加工 発芽制御タンク

味や機能性を自在にコントロールする独自技術「落合式ハイプレッシャー法」により、発芽段階で旨味や栄養価を増大。



#### 加工 エクストルーダー（押出成形機）

独自の膨化成形技術により、肉のような弾力と食感を再現。



#### 製品 植物肉「ミラクルミート」

鶏肉用、豚肉用、牛肉用と各畜種を再現。ハンバーガーや唐揚げなど、さまざまな料理に活用できます。



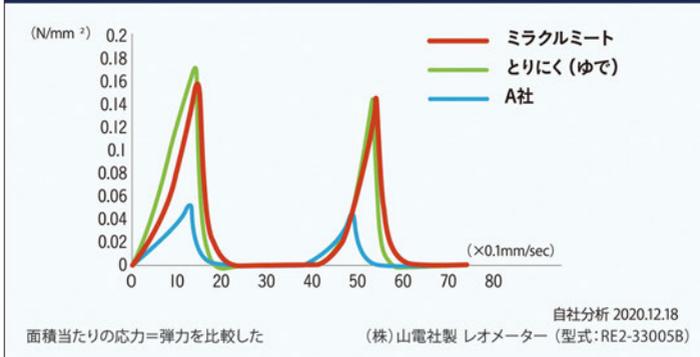
発芽タンク



酸素，二酸化炭素，温度，水分量を調節しながら  
発芽させることで美味しさを引き出す

「ジャー法」で大豆を発芽させ、旨味や栄養価を増大させます。その発芽大豆をエクストルーダー（押出成形機）にかけ、膨化成形技術により、肉のような弾力と食感を再現しています。これらの独自技術により、異風味を低減した植物肉「ミラクルミート」を製造しています。

## 食感の向上 発芽大豆の植物肉ペレットの復元力



食感の比較

### ■おわりに

我々の食を取り巻く環境も以前とは大きく様変わりし、環境に配慮した商品を求められる機会も多くなってきました。世界的な人口増加によるタンパク質不足の懸念、疫病の蔓延、地球温暖化といった社会問題を背景に、“SDGs・持続可能な開発目標”の概念が広まり、環境に優しい植物性タンパクの需要が日々高まっているのを実感しております。

兼松グループとしましては、DAIZ社が開発・生産する植物肉「ミラクルミート」の販売することで、世界的なタンパク質危機の解決と環境負荷の低減を推進し、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきたいと考えております。

### ■お問合せ先

兼松食品株式会社

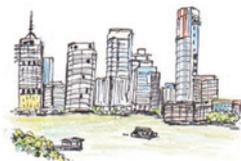
新規事業室 小山大地

MAIL: daichi\_koyama@ksh.kanematsu.co.jp

## オーストラリア第三の都市ブリスベンより食レポ

三菱商事(株)／Riverina (Australia) Pty Ltd 出向

日野 翔太



飼料輸出入協議会関係者の皆様、平素より大変お世話になっております。皆様におかれましては、コロナ禍での在宅勤務や行動制限等で仕事面・生活面においてご苦労されていることと料いたします。一刻も早く世界全体がこの難局を乗り越え不自由のない生活に戻ることを祈るばかりです。

当方は2020年11月よりオーストラリア・ブリスベン在の三菱商事(株)100%子会社であるRiverina (Australia) Pty Ltdに赴任しており、早くも8カ月ほどが経過いたしました。コロナ禍での赴任であったため、現地にて2週間の隔離生活をいたしました。空港到着後に政府指定の車でホテル入りし、部屋の鍵も渡されず、窓も開かない部屋から一步も外に出られない状態での隔離生活はまさに苦痛そのものでした。警備員の「ランチ！」の声と共に部屋の前に置かれた食事にありつき、唯一の楽しみであったUber Eatsで頼んだハンバーガーで何とか意識を保ちながら、まるで囚人のような生活をしたことは今後の人生において話のネタに出来る貴重な経験になったと思います（フードデリバリーは認められていたことが唯一の救いでした）。そのような隔離生活の反動もあってか、解放直後から食事・観光で色々な場所に足を運びましたので、この場をお借りして当地の食生活を中心に少しでも皆様にご紹介出来ればと思います。

### (1) オーストラリア／ブリスベンでどんなところ？

ご存知の方も多いと思いますが、オーストラリアの国土面積は日本の約20

倍である一方、人口は日本の5分の1程度（約2,500万人）であり、その内の7割近くが都市部に集中しています。都心から車で1時間も走れば大穀倉地帯や山々が広がる自然豊かな国です。また、先進国では珍しく年々人口が伸びている国でもあります。当方が赴任しているブリスベンはシドニー、メルボルンに次ぐ第三の都市であり、人口は約250万人で、約1万人の日本人が住んでいます。ブリスベンが位置するクイーンズランド州は別名「Sunshine State “太陽の州”」と呼ばれており、とにかく晴天の日が多く、冬の最高気温も20度前後と、一年を通して非常に暖かく住みやすいことで有名です（ただし、オーストラリアの紫外線は日本の約7倍とされているので、日焼け止めが必須アイテムです）。



ゴールドコーストの街並み



カンガルーの群れ（※野生ではありません）

ブリスベンに程近く有名なのがゴールドコーストでしょう。ブリスベンから車で約1時間で行ける観光スポットであり、1年中サーファーが集まる賑やかな町です。また同じクイーンズランド州では、皆様ご存知のケアンズ周辺のグレートバリアリーフも世界最大級の珊瑚礁地帯として有名ですね。他にもブリスベンから少し車を走らせれば数々の国立公園が並び、沢山の野生動物が生息しています。オーストラリアと言えばカンガルーやコアラかと思



スプリングブルック国立公園（ブリスベンから車で1時間半ほど）

いますが、運が良ければ野生の彼らにお目にかかることも出来ます。驚くべきことに、カンガルーが住み着いているゴルフ場もいくつかあり、プレー中ひょっこり顔を出してくれることも稀にあります。ゴルフ駆け出しの当方は、誤って彼らにボールを当てないように注意しながら練習に励んでいます。

## (2) オーストラリアの食生活

オーストラリアの食生活は、移民が多く住んでいることもあり、特に決まった形式は殆どありません。植民地時代のイギリス式のみならず、米料理やパスタ料理、日本食は勿論、中華、韓国料理等の各種アジア料理等、世界中の国々の食事を楽しむことが出来ます。その中でもやはりオーストラリアと言えば肉料理でしょう。オーストラリアでは伝統的にバーベキュースタイルが人気で、ローカルではバービー“Barbie”と呼ばれており、週末は家族や友人とビール片手にバービー！という過ごし方が一般的です。肉の中でも



Wagyuステーキ, ロブスター, 牡蠣

特に牛肉産業はオーストラリアにとって最重要産業の一つであり、オーストラリアは世界人口の増加と共に増えていく食肉需要を賄う最重要国の一つとして位置付けられています。中でも特に印象的であったことは、オージービーフと言えばアンガス種やヘレフォード種が有名ですが、その中でも“Wagyu”ブランドが大人気ということなのです。ここで言う“Wagyu”とは日本産の和牛ではなく、あくまでオーストラリア国内で生産された“Wagyu”種の牛肉のことを指します。元々は1990年代に日本の和牛種がオーストラリアに持ち込まれ、その飼育・管理のノウハウが次第にオーストラリア全体に普及していき、現在ではオーストラリア産“Wagyu”として世界的に認知されるようになりました。このように日本の和牛がそのまま英語名になり、オージーのみ

---

ならず世界的にも人気があることは、日本人の一人として非常に誇らしく感じます。

オーストラリア産牛肉で特徴的なことは肉牛の飼育方法であり、大きくグラスフェッド（牧草飼育）とグレインフェッド（穀物飼育）の2つに大別されます。前者は赤身が多く比較的ヘルシーである一方、後者は霜降りになりやすくジューシー感があります。日本人が慣れ親しんでいるステーキはグレインフェッドの方が主流かと思います。舌バカな当方は目隠しした格付けチェックで正解出来る自信がありませんが、オーストラリアにお越しの際は、ぜひ両者の味の違いをお楽しみいただいてはいかがでしょうか。更に、肉料理以外にも忘れてはいけないのが新鮮な海鮮料理。ゴールドコーストの海沿いで食べるロブスターや牡蠣は何とも言えぬ絶品です。加えて、オーストラリアと言えばワイン、というイメージをお持ちの方も多いのではないのでしょうか。南オーストラリア州を主産地として東西3,000km超にわたってブドウ畑が点在していますが、その広大な景色はまさに圧巻。牛肉や海鮮料理に欠かせないお供として、味わい深いオーギーワインをぜひ一度当地でご賞味ください。

### (3) ブリスベンの日本食事情

色々な国の料理が楽しめるという点で前述しましたが、中でも日本食はオーギーの間でも大人気です（当社にも日本食が好物という社員が沢山います）。街を歩けば多くの日本料理店が立ち並び、日本の家庭料理をメインにしたお店や、寿司屋やラーメン屋、焼き肉屋等種類は多岐に渡り、どこに行っても日本食を楽しむことが出来ます。ブリスベン市内で展開するラーメン屋 Taro's Ramen は、元商社にお勤めの方が脱サラして始めたとして、日本人だけでなくオーギーにも人気があるお店の一つです。また、アジアンマーケットも至る所にありますが、日本食や日本の日用品しか売っていない Japanese スーパーもいくつかあり、日本ならではの蕎麦やうどん、納豆や各種調味料等、ほとんど



日本で食べられるレベルと遜色ない天ぷらや刺身

の日本食材・日用品を購入することが出来ます（個人的には日本でお世話になっていた「すし太郎」が売られていたことにとっても感動しました）。それも  
あり家で食事をする時はほぼ和食で、食生活という意味ではあまり海外にいる  
気がしません（笑）。ただそれも日本食が世界で愛されているが故のことと  
大変嬉しく思います。

#### (4) 当社紹介

最後にこの場をお借りして簡単に当社の紹介をさせていただきます。当方が勤務する Riverina 社は1927年創業の歴史ある会社で、オーストラリア国内における配合飼料製造事業、並びに穀物トレーディング事業を営む会社です。クイーンズランド州・ニューサウスウェールズ州に8つ、西オーストラリア州に1つの計9つの拠点を構え、オーストラリア国内の畜産・酪農家向けの飼料販売や、製粉会社や他飼料メーカー向けの穀物原料販売、更に日本を含むアジア諸国を中心として穀物の輸出事業を行っています。特に当社は肉牛用飼料販売に強みを持っており、前述いたしました通り、今後伸びゆく豪州産牛肉産業を支えていくべく日々奮闘しています。また、2017年から3年連続の干ばつに見舞われ、オーストラリア産穀物は残念ながら競争力のない状況が続きましたが、2020年と2021年においては降雨にも恵まれ各種穀物が隆々



当社配合飼料工場と自社トラック

と育てておりますので、皆様に良質で競争力のある穀物原料をお届け出来るように、陰ながらサポートしてまいりたいと思います。

現時点で日本とオーストラリアの国境は閉じた状態が続いていますが、無事にオープンした後オーストラリアにお越しの際は、ぜひ当社にもお立ち寄りいただければと思います。その際は“Wagyu”ビーフと赤ワインで最大限のおもてなしをさせていただきます。



当社メンバーでの夕食。右側手前から3番目は近藤副社長（同じく三菱商事から出向）、筆者は右側手前です。その際は“Wagyu”ビーフと赤ワインで最大限のおもてなしをさせていただきます。

引き続き大変な状況が続くかと思いますが、末筆ながら飼料輸出入協議会関係者の皆様とご家族様のご多幸を祈念いたしまして、当方からのご挨拶とさせていただきます。

## わが社飼料関連部署の新人紹介



(社名, 順不同)

### 三井物産株式会社



平西 滉太 (ひらにし こうた)  
食糧事業部 飼料穀物室

今年4月に三井物産に入社し、飼料穀物室に配属になりました、平西滉太と申します。滉という字には珍しくさんずいが入っていますが、これは両親が海のように大きな人間に育つようにという願いを込めて付けてくれたそうです。大学時代はラクロス部に所属しており、中高サッカー部時代は60kg前後だった体重が85kgになり、身体は両親の願い通りに大きくなりました。今後は体だけでなく心も大きな人間になるべく、仕事を通じて成長していきたいと思っています。

私は4月まで大学院に在籍しており、オンデンザメというサメの長寿の秘訣について研究していました。同サメは寿命が400年を超える地球上で最長命の脊椎動物とされており、成長のスピードも非常に遅い(1年で1センチ)ことが知られています。また、世界一のろいサメとしても知られており、食事も週に1回と深海でひっそりと暮らしています。オンデンザメが深海でスローライフを送っている一方、穀物・飼料業界の皆様が日々汗水を流し、日本の食を支えておられる姿を拝見し、将来、皆様のような立派な人間になりたいと強く感じています。至らない所、数多くあるかと思いますが、新人の平西はオンデンザメより成長が遅い等と揶揄されることがないように、鋭意尽力いたしますのでご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

## 双 日 株 式 会 社



伊藤 響子 (いとう きょうこ)  
食料・水産部 食料原料課

初めまして。食料・水産部食料原料課に配属されました、伊藤響子と申します。

大学で農学部／院に所属し、修士課程在学中にはフィリピンのド田舎に1年間留学していました。研究テーマは、飼料用トウモロコシの栽培および収益性向上でした。飼料原料を扱う部署に配属されたことで、農業を違う角度から見られ、毎日楽しいです。

商社を志望したのは、途上国の発展にビジネスを通して関わられる絶好の環境だと思ったからです。今はまだ、困っている人に貢献できるような成果は出せていませんが、先輩方に学びながらできることを増やしていきたいです。

最近テレワークも多く運動不足になりがちなので、入社の際には最寄駅の地下5階(?)から階段とエスカレーターを歩いて昇ることを継続しています。今までは圍場で楽な長靴ばかり履いていたため、早くハイヒールを華麗に履きこなせるようになるのが密かな目標です。

どうぞよろしくお願いたします。



渡辺 彩由季 (わたなべ あゆき)  
食料・水産部 食料原料課

初めまして。本年度より食料・水産部 食料原料課に配属されました、渡辺彩由季と申します。大阪に生まれ、両親の仕事で2年に一度のペースで引越しをしてきた転勤族です。様々な環境に身を置き感じた文化の違い、ジェンダー観、外国人差別などに疑問を持ち、大学では日本とイギリスの多文化

共生について研究をしました。4月から上京し、最近のささやかな楽しみは自家栽培のプチトマトとバジルを育てることです。世界中の人々に豊かな暮らしをサステナブルに提供したいと思い商社を希望したため、生活に密接に関わる商材に携われることを嬉しく思います。これからトレーディングや食料に関する知識を深め、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

..... **三菱商事株式会社** .....



三輪 侑史 (みわ たすく)  
穀物飼料部 飼料チーム

座右の銘：毎日が人生最高の日

今年度入社いたしました、飼料チーム三輪侑史と申します。大学在学時はラグビー部に所属し、部活動と勉強併せて力を入れた4年間でした。

今後様々な経験をする中で、人間力を伸ばし、大きく成長して行きたいと考えております。

未熟な私ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いたします。



三島 祐司 (みしま ゆうじ)  
穀物飼料部 コーン・マイロチーム

座右の銘：一念天に通ず

この度、コーン・マイロチームに配属になりました三島祐司と申します。神奈川県横浜市出身で、大学時代のゼミではSDG sについて学んでおりました。

また、小学生の時から野球に没頭しており、大学時代は体育会野球部に所属しておりました。

真摯に業務に向き合い、精進していく所存です。

精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程、何とぞよろしく願いいたします。



黒川 尚暉 (くろかわ なおき)  
穀物飼料部 コーン・マイロチーム

座右の銘：不可能の反対は挑戦

この度コーン・マイロチームに配属になりました、黒川尚暉と申します。  
大学ではスポーツビジネスを専攻し、一方で体育会ボート部 (rowing) では主将を務めておりました。

本邦の食の根幹を支えるビジネスに携われることに高揚感と使命感を感じており、やる気に満ち溢れております。

まだまだ未熟な点ばかりですが、ご指導ご鞭撻のほど、何とぞよろしく願いいたします。



小林 英里佳 (こばやし えりか)  
穀物飼料部 麦チーム

座右の銘：誠心誠意

今年度入社いたしました、麦チーム小林英里佳と申します。

大学では運動会アメリカンフットボール部のスタッフとして活動しておりました。

困難な状況下でも粘り強く努力できることが自身の強みです。

何事にも好奇心を持って挑戦し、努力を重ね、皆様に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。



久嶋 晃史 (ひさじま こうし)  
穀物飼料部 オイルシードチーム

座右の銘：二兎追う者が二兎を得る

今年度入社いたしました、オイルシードチーム久嶋晃史と申します。

小学校入学前から野球を始め、大学では準硬式野球部に所属しておりました。

今後は日々の業務を通して業界知見を深め、人間力を磨き、より良い社会を創る一翼を担いたいと考えております。

未熟な私ではございますが、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしく願いいたします。

..... **豊田通商株式会社** .....



**安藤 美波** (あんどう みなみ)  
穀物事業部 穀物受渡グループ

皆様、初めまして。食料生活産業本部 穀物事業部 穀物受渡グループ配属となりました、安藤美波と申します。

高校卒業まで名古屋で過ごし、大学入学を機に上京してまいりました。

大学では学部代表サークルに所属し、大学主催イベントの企画運営に没頭しました。生まれた国も育った環境も全く異なる仲間と、同じ目標に向かって取り組む難しさにぶつかりながらも、一緒にチームとして取り組む楽しさを感じる、充実した4年間でした。

趣味は、友達と自然を求めて遠出することです！先月は奥多摩に魚を釣りに行きました。

日々変化し続けるこの穀物業界へ入り2カ月が経ちますが、お客様のために、常にチームで一体となり業務を行う先輩方の姿を通して、この仕事の魅力とやりがいを日々肌で感じています。

至らぬ点が多々あるかと存じますが、どんな時も素直に学ぶ姿勢を忘れず、1日でも早く皆様のお役に立てるよう、精進してまいります。ご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。

## 丸 紅 株 式 会 社



住吉 宙樹 (すみよし ひろき)  
穀物油糧部 穀物課

皆様、初めまして。この度、穀物油糧部穀物課に配属されました住吉宙樹と申します。かねてからの希望であった穀物油糧部へ配属され、嬉しい気持ちと共に身の引き締まる思いです。

私の大学時代は、駅伝・長距離の部活動漬けの日々でした。1日30キロ近い距離を走りこみ、実際に箱根駅伝出走まであと一歩まで迫りました。しかし、最終的には箱根駅伝を走るという目標を達成することはできず、大学時代は人生で一番悔しい思いをしました。このような私だからこそ、今後の会社人生では自他共に認める成果の出せる人間となり、人生における真の「敗者復活人材」になれるよう精進いたします。入社して2カ月が経ちますが、時の流れだけが早く今の私はわからないことだらけです。しかし、常に自己研鑽に励み、頂いた全ての仕事に対して真摯に取り組み、必ずやり遂げることは徹底していきます。そして、将来は日本の穀物業界を支えられる人材になれるよう日々コツコツ努力を重ねてまいります。

皆様、今後とも何卒よろしく願いいたします。



潤脇 恵里菜 (ふちわき えりな)  
穀物油糧部 穀物課

皆様、初めまして。穀物油糧部穀物課に配属となりました、潤脇恵里菜と申します。大学時代は、農学部で植物ホルモンの研究をしておりました。植物相手の研究でしたので、なかなか思い通りの結果が出ないことも多々ありましたが、卒業直前まで実験をし続けた粘り強さは仕事でも活かしていきたい

いと思っております。

また、学園祭実行委員会に所属をし、お笑い芸人さんたちのステージの企画を担当しておりました。分単位のステージを管理するのはとても大変でしたが、楽屋での芸人さんたちの素の姿を見ることができた貴重な経験となりました。

趣味は、「食」です。食べることも、作ることも好きです。食べ物なら何でも好きですがカレーが大好きです。その中でもインドカレーが特に好きです。

まだ慣れない点も多く、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、先輩方から多くのことを吸収し、一生懸命努力してまいります。よろしくお願いいたします。



樋口 瑠惟 (ひぐち るい)

穀物油糧部 麦・油糧課

皆様、初めまして。穀物油糧部 麦・油糧課に配属されました樋口瑠惟と申します。

生まれも育ちも東京の生粋の日本人なのですが、大学をアメリカに留学、卒業し本年度より新社会人の運びとなりました。

大学ではマーケティングを専攻するとともに、日本人学生会という団体に所属し、現地の学生や子供達に日本の文化を伝える活動も行っておりました。

大学から留学を決意した理由としましては、英語のスキルを身につけたかったことと、サポートの少ない環境下での生活を経験したかったことが主なものとなります。渡米当初は人間関係や授業の理解度など様々な不安を抱えていましたが、持ち前の好奇心、挑戦心を存分に発揮し、無事卒業いたしました。

まだまだ未熟でありご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、好奇心や挑戦心を忘れずに業務に精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 兼松株式会社



坂井 勇人 (さかい はやと)  
穀物飼料部 穀物課

皆様、初めまして。兼松(株)穀物飼料部穀物課に配属されました坂井勇人と申します。人からは、「坂本さん」と間違えられたり、(プロ野球選手、巨人の坂本勇人と一字違い)「ゆうと」と読み間違えられたりします。改めて「さかいはやと」と申します。よろしくお願ひします。

簡単に自己紹介をさせていただきます。生まれは神奈川県横浜市です。その影響もあってか幼い頃から船が好きで、山下公園に行き氷川丸等の船を見て、ワクワクしていました。そういった背景もあり就職活動では、商社や海運を志望しておりました。そして4月から穀物飼料部に配属され、6万トン級のバルク船を世界から日本に持ってくる仕事に就き、非常に嬉しく思います。

私は幼稚園から高校までサッカーに打ち込んできました。大学進学後はサッカーサークルに入りました。しかし、どこかぬるく感じてしまい、その反動から世界で自身を試したいと思い、オーストラリアの大学に約1年間留学に行っていました。趣味はキャンプ等のアウトドアです。昔から学びの意欲が高いことが強みであると自負しています。日々、皆様から多くのことを吸収し、この道のプロフェッショナルになれるよう努力していきますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



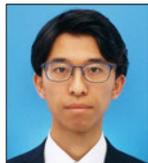
川田 翼 (かわだ つばさ)  
穀物飼料部 副原料課

皆様はじめまして。兼松(株)穀物飼料部・副原料課に配属されました川田翼と申します。「食」に携わりたいという希望が叶い、本部署に配属されたこと

を嬉しく思います。現在は大豆油かすのデリバリー業務を担当しており、先輩方に追いつけるよう日々精進しております。

簡単に自己紹介させてください。名古屋で生まれ、大阪府の交野市という下田舎で育ちました。小学生時代には父親の仕事の都合上、2年間アメリカ合衆国に住みました。相手との意思疎通が全くできない環境下で、誰に対しても気さくに話しかける鋼のメンタルを習得しました。また当時、韓国サッカー界のスーパースターに顔が似ていたことから、韓国人女性に激モテしていました。その後、私のモテ期が再来することはありませんでした。

帰国後、中高でテニスに打ち込み、運にも恵まれインターハイ出場を経験することができました。大学は京都の同志社大学に進学し、新聞やインターネットを通じて体育会の活躍を報じる広報機関に所属しておりました。連日徹夜かつ無賃で働かされたことにより、どのような条件下においても働き続ける耐性を身に付けることができました。社会人になり、自分には才能がないと感じる瞬間が多々あります。ですが諦めずに食らいつき、一日でも早くお客様に貢献できる人間になれるよう日々進化します。22年間で習得した自分の強みを存分に活かして頑張りますので、これからよろしくお願い致します。



森 一陽 (もり かずはる)  
穀物飼料部 粗飼料課

皆さんこんにちは。兼松、穀物飼料部・粗飼料課に配属された森一陽と申します。この場を借りて自己紹介をさせていただきます。

略歴を簡単に紹介すると、6歳まで東京、小学校6年間は岐阜、中高6年間は中国・北京、大学は大分にある立命館アジア太平洋大学で過ごしました。6・6・6・4と中途半端に住居が変わったため、出身地を聞かれると少し迷ってしまいます。中国ではインターナショナルスクールに通い、言語が通じない環境に耐性が付きました。大学では、歴史が好きだったため、卒論テーマを政治思想に関して執筆いたしました。海外ボランティアサークルに3

年間所属し、タイ王国・スリン県において有機農業を広める活動をしており  
ました。様々な環境でも生きていける自信がつかしました。

趣味は2つあり、最近は2つともあまりできていませんが、バイクと読書  
です。中型のバイクを大学で乗っており、もし機会があれば大型の免許を取り  
たいです。読書は卒論テーマであったH・アーレントの本を読むのが好き  
です。個人的には『人間の条件』がおすすめです。

現在、私は粗飼料の輸入業務に携わらせていただいております。牧草のよ  
うに、踏まれても折れない強い人間になり、飼料のみならず世界に影響を与  
えるように奮励努力してまいります。よろしく申し上げます。



徐 淳鎬 (ジョ ジュンコウ)  
穀物飼料部 ペット事業室

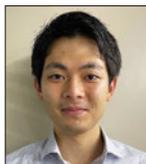
皆様、初めまして。4月より穀物飼料部・ペット事業室に配属されました  
徐淳鎬と申します。現在はペットフードの輸入業務を担当しております。こ  
れからは何卒よろしく願いいたします。

名前の通り、中国出身です。18歳まで上海で過ごし、大学入学を機に来日  
しました。来日当初は横浜市、家系ラーメン屋の多い町に住んでいました。家  
系ラーメン屋でライスを注文する人に対して、当時はとても理解できません  
でしたが、一年後に自分もこのような“悪習”に染まりました。

大学時代は日本の部活文化に憧れ、大学4年間体育会重量挙部に所属し、  
ウエイトと向きあう日々を送ってきました。部活を通じて感じた日本の素晴  
らしい部活文化や日本の食文化など、世界にまだ完全に知られていない日本  
の文化を世界に発信したいと思い、就職活動ではその最前線の商社を志望し  
入社しました。一日も早く自分の国際性を発揮できるよう、一生懸命努力し  
てまいります。至らぬ点ばかりの未熟者ではありますが、皆様のご指導ご鞭  
撻のほど、よろしく願いいたします。

写真は、私が最後に出場したインカレ大会の写真となります。

## 伊藤忠商事株式会社



木寺 佑介 (きてら ゆうすけ)  
飼料・穀物部 飼料課

初めまして。伊藤忠商事株式会社の木寺佑介と申します。

2021年度4月より、飼料・穀物部飼料課にて飼料ビジネスに従事しております。今後ご指導賜りますようお願い申し上げます。

実は、私は2019年入社でして、初めの2年間は石炭・原子燃料部に所属し、発電用燃料の石炭（一般炭）のトレードを担当しておりました。バルク船での原料輸入ビジネスという点において穀物と石炭には共通点があるものの、やはり勝手が違うところが多々あり、まさに畑違いのビジネス（畑のビジネス？）に異動することになりました。

特に大きな違いを感じる点は穀物が食品であるという点です。自らが輸入に携わったトウモロコシを牛や豚が食べ、その肉や加工品を私たちが口にするというサプライチェーンの長さは石炭ビジネスにはなかったものですので、これまでとは異なり、原料を輸入したその先に意識が向くようになった気がします。スーパーやコンビニに並ぶ商品にも親近感が湧くようになりました。

このように新しい視点を得られることは非常に高揚感を覚えるものですので、今後飼料ビジネスに慣れていく中でも、今感じているような新鮮な気持ちを忘れずにお仕事が出来ればと思っております。そして、飼料業界のさらなる進化・発展に貢献できるようなビジネスパーソンを目指します。

改めまして、これからどうぞよろしくお願いいたします。

# 米国産トウモロコシの



<島田達也氏>



<高橋千明氏>



<浦丸公猛氏>



<遠藤克哉氏>



<加藤 淳氏>



<長谷川朝飛氏>



<藤原 玄氏>



<三崎邦浩氏>

司会 皆さん、お集まりいただきましてありがとうございます。今日、座談会の司会を務めさせていただきます三井物産の三崎です。

本日ご参加いただいた方の中ですと、私が皆さんより比較的長い経験があり、2012年・2013年の大相場も経験しました。当時は史上最高値を更新する大相場でしたが、今年もシカゴ市場の期近価格は一時700セントを超えとなり、今年は『Feed Trade』の読者の方々も例年になくこの主原料座談会の内容に興味を持っていただいているのではないかと思います。皆さんは情報網や経験等いろいろ持っていらっしゃると思いますので、是非読者の方々へ貴重な情報や独自の分析を本日の座談会でお話しいただければと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

最初に、これまでの総括を三井物産の加藤さんにしていただきます。加藤

# 需給とシカゴ相場動向

## 出席者

(社名ABC順, 敬称略)

島田 達也	伊藤忠商事(株)飼料・穀物部	飼料課
高橋 千明	兼松(株)穀物飼料部	穀物課
浦丸 公猛	丸紅(株)穀物油糧部	穀物課
遠藤 克哉	三菱商事(株)穀物飼料部	コーン・マイロチーム
加藤 淳	三井物産(株)食糧事業部	飼料穀物室
長谷川朝飛	双日(株)食料・水産部	飼料原料課
藤原 玄	豊田通商(株)穀物事業部	穀物トレードグループ
<司会>		
三崎 邦浩	三井物産(株)食糧事業部	飼料穀物室 室長補佐

さん、よろしくお願いします。

### ●過去1年間のシカゴ相場を振り返って

加藤 三井物産の加藤と申します。昨年10月からトウモロコシを担当しています。どうぞよろしくお願いします。私から1年間のシカゴ相場に関して、簡単に振り返らせていただきます。昨年、この会が行われた7月3日の前日のシカゴの期近限月引け値は342.5セントでした。その後、1年間で記録した最高値は本年5月7日に記録した775セント、一方で、最低値は去年8月7日に記録した307.25セントでしたので、この1年間で実に500セント近い値動きがあった格好です。

もう少し具体的に振り返ります。去年この会が行われて以降、8月の上

---

旬にかけて相場は非常に弱い展開となりました。当時のUSDAの需給報告では、20/21年クロップの単収は180bu/エーカーを超える高い数値が出ていたこともあって、市場では潤沢な供給量が予見されていました。ただし、その後状況が一変しまして、中国の大量買付けが始まったことと、8月にアメリカ中西部を襲った大型ハリケーンのデレーチョを大きな要因として需給環境が急激に引き締まり、相場は急上昇を開始しました。更に今年に入ってから、ブラジルの二期作トウモロコシの作付け遅延が発生して、更には乾燥によって減産の懸念が顕在化して、この相場の上昇に拍車がかかったという形です。

中国の買付けは現在に至るまで継続することになりましたし、20/21年クロップの単収は最終的には下方修正されて、去年8月下旬以降、相場は一度も下げトレンドを形成することはなく、本年5月上旬までほぼ一貫して上昇を続けました。これほどの大きな相場上昇を記録したのは、先ほど三崎からもコメントがありましたが、大干ばつによりアメリカ産の供給が減少して、800セントを超えた2012年以降のこととなります。

ただし、上昇一辺倒できた相場ですが、5月中旬頃から潮目が少し変わった印象です。一時は大きく値を落とす場面も見られて、期近限月は700セント台を割り込みました。これは振り返ると、アメリカの21/22年クロップの作付けの進捗が当時は良好で、かつ作付面積も昨年からは上昇するだろうと市場で予想され、供給面に楽観的な見方が広がったことに要因があるのかなと思います。

一方で、需要面に目を向けると、中国の需要が減退するような気配は今のところ見えていませんし、加えてアメリカのエタノールの生産量は、コロナからの経済回復により回復傾向で、アメリカの期末在庫率は一桁台と低水準が維持されていることから、引き続き需給環境はタイトな状況が続いております。よって、下げ一辺倒とはならず、5月下旬以降、現在に至るまで期近限月に関しては、値動きは荒いものの、概ね一定のレンジ内で推移してきた



座談会風景

かと思えます。

以上、駆け足ではありますが、私から1年間の簡単なまとめとなります。

司会 加藤さん、ありがとうございます。座談会の前半では、旧穀の詳細を皆さんとディスカッションしていきたいと思えます。相場格言で「余る余るは足らぬの始まり」といった言葉がありますが、まさにこの格言通りの動きでしたね。去年の今頃は、世界的に豊作と言われておりましたので、1年後の今、このような相場になることは誰も予想してなかったのではないかと思います。

それではまず旧穀の供給面に関して、丸紅の浦丸さんから分析等ご意見をいただければと思えます。よろしくお願ひします。

### ●2020／21年産米国トウモロコシ（旧穀）の供給動向

浦丸 丸紅の浦丸と申します。昨年4月からトウモロコシの商売を担当しております。本日はよろしくお願ひいたします。

昨年旧穀の供給動向について、作付面積と単収の2方向から振り返って

---

みたいと思います。まず作付面積は、2021年3月の作付け意向面積の段階では9,700万エーカーと、当時の事前予想が9,400-9,500万エーカーといわれた中でのビッグサプライズとなりました。その3カ月後に6月の確定面積が9,200万エーカーと、実に500万エーカー減少する結果になり、市場は大きなサプライズになりました。一時期寒波の心配はありましたが、総じて天候は問題もなく、クロープコンディションも例年と遜色ない感じだった矢先でした。意向面積の農家へのヒヤリングは3月前半に行われており、まだこの時はアメリカでもほとんどコロナ感染者がいなかった状況でした。当時、私もアメリカに駐在していたのですが、日本の方が感染者数が多いくらいで、そんなに米国産トウモロコシの需要が減るだろうという雰囲気ではなかったことを記憶しています。

ところが、その後3月後半から4月にかけて一気にアメリカでコロナが拡大し、6月末の作付け確定面積発表時点では、世界でトップクラスの感染者数に押し上がったため、需要大幅減少懸念から、農家の作付けインセンティブが大きく減少したと考えられます。当時のシカゴ定期も320セント/bu前後の安値だったこともあって、農家が積極的に作付けする状況ではなかったと考えられます。その後も、先ほど加藤さんからお話があったと通り、デレーチョの影響等もあり、最終的な作付面積は9,080万エーカーまで、下方修正が入りました。

続いて単収についてですが、単収については、過去の単収からまずは178.5bu/エーカーでおかれていたものの、実地調査による単収修正が入り、8月では181.8bu/エーカーとなりました。コロナ禍の中で実地調査の精度も疑問視されておりましたが、その後アイオワを中心にハリケーンデレーチョが襲い、一気に単収減少懸念が浮上。9月のUSDA需給発表では178.5bu/エーカーへ3.3bu/エーカー大幅に減少し、収穫が進むにつれて単収が徐々に明らかとなり、11月には更に175.8bu/エーカーへ下方修正、最終的には1月に172bu/エーカーとなりました。最高単収見通しだった8月の181.8bu/エ

---

ーカーから最終的に9.8bu/エーカー減となりました。

新穀の需給が最初に発表された5月時点では160億buの生産量だったものが、最終的には142億buと実に18億bu、約4,600万トンの減産となりました。先ほど三崎さんの話にもあった2012/13年の大干ばつの年を除けば、ここまで生産量が当初から落ちた年はなかったかと存じます。地球温暖化が進んできたことにより、従来とは異なる突発的な異常気流、気温、降雨が生じやすく、今後も生産量のブレが今まで以上に大きくなるのではないかと危惧しております。以上、簡単ですが旧穀米国産トウモロコシの供給動向のまとめとさせていただきます。

司会 ありがとうございます。浦丸さんは米国に駐在されていたと伺いましたが、私も過去5年ほどアメリカに駐在しており、毎年クロップツアーを行っておりました。昨年デレーチョが発生した当初は、過去の経験から「毎年、中西部で何回か発生する強風でしょう」程度と思い込み、影響を過小評価したことは反省させられました。今振り返れば、現在のトレンドを形成した大きな転換点となる出来事でした。去年からコロナの影響で、現地視察がなかなか簡単にできなくなりましたが、改めて現地視察や現場のネットワークは重要だなと感じた次第です。

次に、旧穀においてはもう一つ、非常に大きなトピックスがあったと思いますが、世界的な需要動向の変化について、三菱商事の遠藤さん、ご意見、分析をお願いしたいと思います。

## ●旧穀の需要動向

遠藤 三菱商事の遠藤と申します。入社以来コーンの受渡しを担当し、最近では買付け・備船を担当しております。

米国の旧穀需要動向についてお話しさせていただきたいと思います。まず、旧穀の総需要量は151億bu程度と予測しています。その内訳を、輸出、エタノール、飼料の3に分けてお話いたします。

---

輸出需要は、6月のUSDA発表で7,500万 bu 上方修正されて、28億5,000万 bu と予測されています。輸出成約ペースを考えると、もっと多いという話もありましたが、直近数週間は少ない輸出成約となっています。また、旧穀のマーケティングイヤーを9週間残した段階で、中国向けに未輸出となっている成約数量は2億4,000万 bu あると言われており、一部は新穀のマーケティングイヤーに持ち越されるのではないかと予想しております。そうすると、輸出需要はUSDA予測の28億5,000万 bu 程度に落ち着くと予測しております。

エタノール需要は、6月のUSDA発表で7,500万 bu 上方修正されて、年間需要が50億5,000万 bu と予測されています。直近数週間を見ますと、コロナ禍の影響がなかった2019年対比マイナス3%程度で推移しております。このペースだと、旧穀の需要量は51億 bu 程度になるのではないかと予測しています。

飼料需要については、価格高騰による需要量減少見込み等々のトピックがあるかと思いますが、年間の飼料需要は57億5,000万 bu 程度と予測しています。USDAの予測は57億 bu ですが、この数字が実現するためには、過去25年間で最大の昨年度対比減少幅が必要になり、相当な飼料需要の削減が必要になります。ここで、家畜の頭数を考慮しますと、そこまで需要量を減らすことはできないと見ております。

司会 ありがとうございます。とにかく旧穀における最大のインパクトは、中国が本格的に米国よりトウモロコシの輸入を開始したことです。これは後半の新穀の需給の話にもつながっていく話ですが、中国による旺盛なトウモロコシの買付けは旧穀最大のトピックだったと思います。それに加えてコロナの影響の中で、アメリカは意外と経済の回復が早くガソリン需要も回復した。またバイデン政権が打ち出したエネルギー政策に反応し、エタノールの需要が上がるのではないかと、言う思惑も相場を押し上げる材料となりましたが、とにかく供給面と需要面の双方が相場を押し上げた旧穀だったと思います。

---

四半期在庫の評価については、つい最近、発表されたばかりなので、兼松の高橋さん、やや大変かもしれませんが、ぜひ内容についての総括をお願いしたいと思います。

高橋 6月末発表の四半期在庫については、6月1日時点で期末在庫は41億1,200万buとなりました。ただ、この結果においては市場予想レンジ内、事前市場予想平均値とそれほど乖離がなかったこと、あと次のパートで出てくるとは思いますが、新穀の作付面積に目が行ったことで四半期在庫評価自体は材料視されなかったのかなというのが今回の率直な印象です。

では、第3四半期の在庫はどうなったか見てみると、昨年6月1日時点では50億buと考えると、約9億buの減少となっています。保管場所の内訳は、全体の41億1,200万buに対して42%、17億4,400万buが農家内の在庫、残りはサイロとか輸出ターミナル／エタノールプラント、要は農家外にある在庫が58%、23億6,900万buという結果になっています。

昨年6月1日同時期では農家内在庫が28億6,700万buですので、全体在庫が9億buの減少に対して、農家内在庫は10億bu強の減少となっています。これは過去30年を見ても、lowestとなっており、足許のシカゴ相場上昇により農家にとっては売りやすい環境で売りが進んだのではないかと予想されます。

まず要因の一つとしては今までのパートでも触れられている通り、輸出需要での単純な現物の需要が増えていることに加え、景気回復傾向から足元のガソリン需要増加の高まりからエタノール在庫減少に生産量も増加したことが要因と想定されます。

第3四半期時点の在庫は市場織り込み並の在庫量となったわけですが、織り込み不足、次のパートの話にも重複してしましますが、旧穀期末在庫は現在USDA月例報告値よりもタイトになるシナリオを想定しております。

まず輸出需要を見てみると、5月27日時点USDA輸出検査では20億buと公表されており通関統計でも乖離がない状況です。現時点でのUSDA旧穀最終輸出需要予想値28億5,000万buに対して約72%の進捗。昨年同時期の5月

---

27日時点では63%の進捗と考えると、達成可能な数字と予想されます。前半期の輸出需要から割り返すと第3四半期では10億5,000万 bu くらいの輸出需要だった計算になると思います。

エタノールに関しては、足許の堅調な需要環境。エタノール生産量から割り返すと第3四半期16億6,000万 bu くらいの需要であったと計算をしていくと、第3四半期での飼料需要は8億4,000万 bu だったという計算になります。去年は同四半期の飼料需要は9億9,100万 bu でしたので、約15%の低下となります。

この数字自体の信憑性云々は置いておいて、第3四半期で8億4,000万 bu の飼料需要だったとすれば、今年は第3四半期までの飼料需要合計は50億1,000万 bu となります。では、この数字はどうかということ、昨年の同期間合計対比1.6%の増加となります。

現在のUSDA飼料需要予想値57億 bu になるには、第4四半期飼料需要は昨年同四半期対比30%の減少が必要となります。第4四半期飼料需要においては最も需要が落ちる期間、またトウモロコシ高騰に代用飼料原料が使用されているであろう環境とはいえ飼養頭数は堅調である中において30%減少するシナリオは考えづらいと予想しており、足許USDA需要予想値を上回る生産量となっているエタノールを顧みても旧穀最終期末在庫は現在の織り込み値よりもタイトになる展開を予想しています。

司会 ありがとうございます。

四半期在庫の発表で旧穀の需給がタイトであることは確定的になった中で、7月12日USDAから発表される月例の需給報告でも同様の数字が織り込まれるかは確認しなければなりませんね。過去、サプライズが起きたこともありましたので。

さて座談会前半のトピックスである旧穀の分析ですが、最後に旧穀の期末在庫率はどのくらいになるか予想したいと思います。話の流れから、高橋さん、ズバリどうでしょうか。

---

## ●旧穀の期末在庫率見通し

高橋 今のところ期末在庫率は、USDAの旧穀在庫率予想値7.37%に対して、6.48%で見えています。これは先ほどのとおりですが、飼料需要が7,500万bu増加、エタノールは5,000万bu増加、需要サイドは合計1億2,500万buの増加。現在織り込みよりタイトになると予想しております。

司会 分かりました。ありがとうございます。ここは今日の参加者全員からご意見を伺いたいと思います。豊田通商の藤原さん、いかがでしょうか。

藤原 豊田通商の藤原です。今年の3月まで大豆粕、菜種油粕の営業担当していたのですが、今年4月から主原料営業をさせていただくことになりました。よろしく願いいたします。

当社は、旧穀の期末在庫率は7.0%で見えています。供給面に関しては、USDAの6月報告から変更はしていません。

一方、需要面に関しては、兼松高橋さんから詳細なご説明がありましたが、それに近い需要の増加があり得るのではないかと考えています。具体的には、飼料需要は57億~57億2,500万bu、エタノールはUSDA報告から約2,500万bu増、輸出需要は据え置きとして見えています。それらを総合すると、期末在庫は約10億7,500万bu、期末在庫率は7%くらいになると予想しています。

司会 ありがとうございます。では、島田さん、いかがでしょうか。

島田 伊藤忠の島田です。簡単に自己紹介をさせていただきますと、2018年にシンガポール駐在から帰国しまして、そこから丸3年、トウモロコシの受渡し及び商売をさせていただいております。

弊社の期末在庫率予想は6%ジャストです。実質需要及び米国内のエサ需要は、ともに1億bu増えるという予想で、合計2億bu増。なので、期末在庫は約9億bu、期末在庫率は6%と、多少強気な期末在庫率になっています。

司会 ありがとうございます。では、三井物産の加藤さん、いかがでしょ

---

うか。

加藤 私は、現状のまま7.4%に落ち着くのではないかと予想しています。供給面は、この段階では大きな数値の変更はないと思うので、据え置きで見えています。

需要面に関しては、輸出面がどれくらい変動するか気にはなるのですが、6月時点でのUSDAの発表では中国の輸入量が2,600万トンとなっており、片や同国の総輸入量は3,000万トンを超える水準と見る向きが非常に多いのですが、同国が一部保税區で輸入を行っている分に関してはUSDAの数量報告に反映されないという説もあり、そういった不確実性も踏まえ、この段階では大幅な上方修正は無しとの想定しております。加えて需要面で気になるのはエタノールの生産量ですが、直近1日あたりの生産量が100万バレルを超える水準が継続されていて、このままいくとUSDAが置いている50億5,000万buを超える可能性があります、これも先行不透明性が高いのであえて据え置きを見て、結論としては7.4%の旧穀期末在庫率という予想を置いています。

司会 ありがとうございます。では、丸紅の浦丸さん、いかがでしょうか。

浦丸 旧穀期末在庫率は6.52%で予想しています。供給面は変わらずで、需要面は飼料需要で5,000万bu増加、輸出需要で7,000万bu増加と考えております。

飼料需要は、今年度(2020年10月から2021年9月)の米国畜産生産量が、昨年度対比で100.8%と増加している中で、トウモロコシの飼料需要は昨年の2019/20年度対比で96.7%と現状見通されておりますが、私は20/21年度のトウモロコシの飼料需要は更に伸びると見えています。一番生産量が伸びると見通されている畜種は103%の牛肉であり、現在干ばつに襲われている西海岸、及びコーンベルト北西部は粗飼料の生産地でもあるため、今後粗飼料の減産の影響で濃厚飼料の配合率が上がってくるだろうと考えております。これらを想定し、飼料需要は5,000万bu増加すると見通しております。

---

輸出需要につきましては、2019年9月1日から2020年6月24日までの2020/21年産米国トウモロコシ輸出成約量は累計27億3,800万buで、既に96.1%の成約進捗となっており、直近5年間の同時期成約進捗率は94.7%なので例年より1.4%アヘッド。輸出実績値は2019年9月1日から2020年6月24日で22億6,000万buであり、79.3%の進捗となっており、直近5年間の同時期の輸出実績進捗は76.9%とこちらも2.4%のアヘッドの状況です。ブラジルの減産懸念を考慮すると米国産トウモロコシの外需買いが更に例年以上に追加されると思われ、過去5年間の輸出成約進捗率、実績進捗率から逆算した輸出需要、28億9,000万bu、29億4,000万buの平均29億2,000万buレベルが妥当と考えております。

エタノール需要については、残り9週間で106-7万バレルのペースでいけば、6月のUSDAの発表値50億500万buは達成される見込みであり、6月の1カ月間のエタノール生産量の平均は105万バレルでした。エタノールマージン良好、原油上昇によりブレンダーのマージンも改善、ワクチン普及、ドライブシーズン等を加味すると、現在のUSDAの見通し程度が妥当と考えます。

司会 ありがとうございます。粗飼料からの分析等、私も大変興味深く伺わせてもらいました。三菱商事の遠藤さん、いかがでしょうか。

遠藤 期末在庫率は6.7%を予測しております。USDAの発表対比、エタノール需要が5,000万buプラス、飼料需要が5,000万buプラスになると予測しているためです。

司会 ありがとうございます。続いて双日の長谷川さん、いかがでしょうか。

長谷川 6.9%で置いています。飼料需要5,000万bu増の57億5,000万bu、輸出需要1,000万bu増の28億6,000万buベース、その他変更なしで算出しました。

司会 皆さんにお伺いしていると、一番悲観的な数字を予測されたのが伊藤忠さんの6%、一方、一番楽観的な見解は三井物産の7.4%となりますが、

---

どちらかと言えば下方修正、先日の四半期在庫の数字や、現在の米国内の需要動向も受けて6%台に入るのではないかという見方が強いと感じました。期末在庫率が6%台からのスタートということは、次の新穀の生産動向にもよりますが、非常にタイトな在庫状況で新穀につながっていくというのが、今日の皆さんのコンセンサスなのかなという印象を受けました。ありがとうございます。

では、ここまでは過去の分析ということで、座談会後半は『Feed Trade』の読者の方が非常に興味を持っていらっしゃる、新穀の生産動向、需要動向についてディスカッションしてまいりたいと思います。最新の作付面積報告も先日発表されたばかりですので、分析等していただく時間は少なかったかと思いますが、双日の長谷川さん、いかがでしょうか？

### ●2021/22年産米国トウモロコシ（新穀）の需給見通し

長谷川 改めまして、双日の長谷川と申します。よろしくお願ひいたします。

6月発表の作付面積報告において、トウモロコシは事前予想を110万エーカー下回っていて9,270万エーカーと発表されました。これを受け、トウモロコシに限って言えば、新穀直近9-12月の3限月はストップ高となりました。調査段階で98%は作付けが完了しており、間違いのない数字としてとらえてよいかと考えます。

この9,270万エーカーという数字ですが、実は3月31日時点の同じ作付け意向面積のレポートでは9,114万エーカーという予想だったので、この3月末時点と比べると160万エーカー上振れています。

全体比はどうだったかというと、トレンドイールド179.5bu/エーカーをベースに計算すると、エーカーは151.7億buという生産量になり、過去最高の数字となります。

一方で、前年は9,081万エーカーで、今年の見通しに対しては、今年のほう

---

が190万エーカー高くなっています。大豆も小麦も同様に作付面積は話題で、基本的には期末在庫が少なかったところからの回復という部分と、コロナから経済回復しているところの需要増に応じているという大きなトレンドが感じられます。

事前予想が低かったため、反発する形で相場は上げましたが、意外といい線の数字をいっているのかなという見方もできるのではと考えます。先ほど兼松の高橋さんからお話がありましたが、期末在庫に関しては41億buと、50億buと比較してマイナス9億buで、先ほどの179.5bu／エーカーを使用してエーカー換算すると、500万エーカー分のマイナスとなっています。前年比で190万エーカー上振れていますが、前期比は500万エーカー下振れており、その点を鑑みると、旧穀と新穀を足せば結構マイナスの面が大きく出た印象を受けました。

先の見通しとして、ホット&ドライの気候が受粉期に入っても継続し、一部では降雨の予報もありながら、日々の相場は天候により大きく変動しています。特にアイオワ、イリノイなど主要産地の天候が望ましくないと全米のイールドが大きく下がるため、このエリアの天候は、とくに直近1週間・2週間注意する必要があると考えています。

司会 ありがとうございます。6月の発表は、確かに3月末の数字から上方修正はされましたが、4月、5月、6月と農家は意欲高く作付けを進めたとの情報もあり、有力情報機関の中には9,700万エーカーとの予想も出しておりましたので、事前の期待に比べると非常に少なかったという印象を受けました。

まさに長谷川さんから米国で分析もきちんとされているというお話もありましたが、個人的な疑問として、現在は昔に比べて衛星技術等、あらゆる技術が進化したので作付面積に関してはかなり正確に把握できるのではないかと、と感じることがあります。それにも関わらず、作付面積の発表でサプライズが度々起こるのはまだまだ技術が追い付いていないのか、はたまた、何

---

らかの調整がされたのか分かりませんが、少なくとも需要に比べて、供給サイドは正確な数字が出せるはずにて、近い将来は大きなサプライズが起きないことを期待したいですね。

次に、現在の生育状況、作柄について、三井の加藤さんお願いします。

加藤 作柄状況に関しては、最新の数値は先週6月28日時点に出たもので、グッド・エクセレントの比率が64%で、前の週から1ポイント下がった数値、かつ昨年と同時期と比べると9ポイントマイナスで、過去5年と比べると6ポイントマイナスといった格好です。過去との比較で言うと、マイナスが目立つ形にはなっていますが、あくまで現時点で区切って言うと、アメリカ全体の作柄に対して何かものすごく悲観的な見方が広がっているわけではなく、概ね良好と見ていいのかなと思っています。

気になる点としては、このグッド・エクセレントの比率に関して、地域間の差が非常に大きいということです。特に目立って悪い地域がミネソタ州、ノースダコタ州、サウスダコタ州ですが、これらの地域はPNWからの輸出を支える主要な生産地域なので、この状況が続くと、秋以降のPNWからの輸出に大きな影響を及ぼすこととなります。一度グッド・エクセレント割合が下がってしまうと、そこからの大きな改善は基本的にあまりないと思いますので、個人的には非常に心配しています。

生育に関しては、これから中西部が受粉期を迎えます。先ほど双日さんからもお話があったとおり、天候がより一層重要になってくるところで、去年のような大型ハリケーンが襲ってこないことを祈る今日この頃です。

繰り返しになってしまいますが、今の時点では、全体としては新穀の生産量に大きな不安はないのではないかと考えています。シカゴ相場と関連づけて話すのであれば、期近の限月に買いが集まって、旧穀と新穀のインバースが急拡大するような形にはならないと個人的には見ております。

司会 ありがとうございます。今、ミネソタ、ダコタの環境について言及がありましたが、今日ご参加の方の中で「こんな情報があります」という方

---

はいらっしゃいますか。浦丸さんが持っていらっしゃる米国でのネットワークからの情報はございますか。

浦丸 PNWの新穀に関してはシッパー勢からのオファーがとりづらい状況が続いております。コーンベルト北部の単収がどこまで落ちるかが分からない中で、農家売りが明らかに出づらい状況が続いていると考えております。

司会 農家もちょっと“様子見”というところですかね。分かりました。

次は単収生産量予想ということで、三井の加藤さんの話とまた違った見解もあるのかと思いますので、非常に注目のポイントだと思います。伊藤忠の島田さん、よろしくをお願いします。

島田 今の作柄状況については、三井物産の加藤さんからご説明のあったとおり、グッド・エクセレントの値が5年平均比較6ポイント低いという状況の中、単収をどう見るかということですが、6月のUSDAの月例発表では平均単収179.5という数字が使われています。これはUSDAから過去のデータの傾向値単収の数字をそのまま置かれているので、実際に何か天候の不順がなければ、こういった数字になってもおかしくないと思います。

今の天候状況に関しては、西と東に大きく分けられる状況です。

東については、気温に関しては特に問題はないのですが、雨が非常に多く、受粉障害が起きてしまっている畑もあるということで、問題があるとは言えないながら、至極順調ではないと考えています。

一方で、西についてはノースダコタ、サウスダコタ、アイオワはまさに震源地という言い方が正しいかと思いますが、高温乾燥の干ばつ懸念が起きています。アメリカの西海岸からこのエリアにかけて気温が摂氏50度近いという話になっていますので、このエリアの受粉障害の影響は避けられないのかなと思っています。そのときに単収は、USDAの6月の発表よりもどうしても下がると見込んでいます。

生産量の予想については、単収以外に収穫面積が非常に重要ですが、6月

---

30日の発表では、先ほど長谷川さんもおっしゃっていましたが、9,270万エーカーという数字でしたが、これが一部上方修正されるのではないかというのが大手コミッションハウス、シッパー勢の予想、日本の商社の願いでもあるかと思いますが、恐らくマックス100万エーカー程度で作付面積の上昇があるのではないかと私は期待しています。

司会 ありがとうございます。このパートは伊藤忠の島田さんからメインに伺いましたが、生産量の見方は各社さん、いろいろあるのではないかと思いますので、他にもご意見を伺ってみたいと思います。高橋さん、いかがでしょうか。

高橋 島田さんと大枠同じで、東部では気温に関しては問題がない一方、降雨が多く受粉障害が一部生じているニュース、西部では摂氏50度近いエリアも散見され干ばつ懸念がある中においては、現在のUSDA報告値179.5bu／エーカーのヒストリカルハイを達成するには厳しい環境、下方修正せざるを得ないであろうと予想しております。

一方作付面積に関しては、4月時点の大豆、トウモロコシの新穀ポジションにおけるレシオが2.2-3くらいまで縮まっていたことを考えればUSDA月例報告値9,270万エーカーはコンサバ、プラス100万エーカー増の楽観シナリオはあるかなと見えています。

司会 ありがとうございます。まだ今日は7月4日ですから単収を判断するには時期尚早ですが、USDAの予想単収179.5bu／エーカーは過去最高の数字ですから、ここから更に改善していく可能性よりも、今後の天候次第で悪化していくリスクの方が高いのではないかと、との印象を私は受けております。この動向はみんなで注視していきましょう。

次に、旧穀から大きなトピックになっている需要全般ですが、中国はどれだけ買い続けていくのか、またバイデン政権はどんな施策を打ってくるのか等、いろいろ盛りだくさんだと思いますので、豊田通商の藤原さん、よろしくお願ひします。

---

## ●新穀の需要見通し

藤原 当社からは新穀の需要全般ということで、項目ごとに見解を述べさせていただきます。

まず飼料需要は、経済の回復が継続していることは非常に大きな要因で、かつ、アメリカでは、毎年200万人ほど人口が増加していますので、今後も国内の畜産需要は堅調に推移していただろうと考えています。

畜産の輸出に関しても、例えば、牛肉は生産量が2015年から継続して右肩上がりです。今年は昨年比1%くらい増加する見込みです。輸出先としては、日本、韓国、メキシコ、カナダ、最近是中国が輸入国として台頭してきているので、2021年以降も堅調に推移するだろうといわれています。

豚肉も2014年くらいから堅調に増加しています。ただ、今年是中国がASFから復活している部分がありますので、中国向けの豚肉輸出という意味では若干減少するのではないかと想定しています。

ブロイラーの生産量は10年間ほど継続して堅調に推移していて、中国向けにも出しているのです。今後も堅調に伸びていただろうという見立てをしています。

よって、飼料全般に関しては全体的に需要が堅調で、USDAの発表では57億buとなっていますが、当社としては58億buを超えるのではないかと予想しています。

エタノールですが、皆様からもご発言があったとおり、ロックダウンが明けて、ワクチンも順調に接種され、ガソリンの消費量は急激に回復しています。エタノールマージンも良好のため53億buに近い数字、これは2018/19年度クロップの需要に近い数字ですので、新型コロナ発生以前までの需要量に戻る想定で見えています。

バイデン政権下では、バイオ燃料の促進からエタノール製造需要の拡大という流れは今後も継続していただろうという見立てを持っているので、今後もエタノール需要は堅調に推移していくと考えています。

---

輸出に関しては、2021/22年クローブは、28億5,000万buほどではないかと思えます。今年は黒海産が豊作なので、中国向けの需要はある程度とられてしまうのではないかと考えています。ただ、今年はブラジル産サフリーニャトウモロコシが減産でしたので、米国产の需要という意味ではあまり減少しないのではないかと考えています。

中国の輸入量ですが、新穀も今年度と同等の数量を輸入すると見えています。中国の国策として作付面積の拡大をうたっているのですが、ここ数年は作付面積があまり増えていないんです。一方、単収に関しては緩やかに右肩上がりが増大しています。ただし、飼料需要、食用、工業用を含め需要も堅調に増加していますので、自国の需要を満たすためには、今後も2,600万トンほど輸入していかなければ、現状の期末在庫率を確保できない見立てをしています。

中国は、北部に水源があまりないので、南の水を北に持っていく大運河を建設しようとしています。ただ、こちらは住民の大移動とか資源の破壊等々いろんな問題が発生し得ると思っていますので、なかなか難しい。かつ、これができるのは恐らく2050年あたりだといわれていますので、直近で自国需要を満たすためには、今後も輸入を継続して行くと考えています。

司会 ありがとうございます。中国の需要ですが、コロナの影響で海外旅行や海外転勤、留学など人の流れがとまったというところで、本来海外にいるはずの人たちが海外に行けなかった分、自国での消費が増加したのではないかと、という見方もあるかと思えます。もちろん、逆に各国から人が来なかった等で相殺される部分があるのですが、こんな見方もおもしろいかなと思えます。

中国の需給情報はなかなか正確な情報を掴みきれませんが、引き続き情報収集に努めましょう。

司会 今までの議論を踏まえ新穀の期末在庫率見通しについてご意見を伺いたいと思います。旧穀は7%台を割り込むというのが皆さんの見通しでし

---

たが、新穀に関しましては、まず島田さんよりご意見を伺えればと思います。よろしく申し上げます。

### ●新穀の期末在庫率見通し

島田 弊社は9.1%で見えています。その心は、と申しますと、6月のUSDAの発表の国内需要が123億 bu、輸出が24.5億 buから変えていません。

一方で、生産サイド、供給サイドに関しては、作付面積が9,350万エーカー、収穫作付けのパーセンテージは約91.7%、平均単収は177と、これでもかなり強気というか、あるいはいっぱいとれるという期待的な観測が入っているような数字ではあります。

司会 ありがとうございます。では、浦丸さん、どうですか。

浦丸 新穀の期末在庫率は5.82%という予想をしています。まず生産面は、単収が北西部の高温乾燥で179.5から177.5に下方修正、作付面積は大豆と合算するとほぼレコードの値が既に6月末で発表されており、ここからあまり上方修正はないと考えております。旧穀はキャリーが1億2,000万 bu 減り、生産量は逆に6月対比では1億2,000万 bu 増加するので、供給量は変化なしです。

一方、需要面は6月のUSDA発表対比4億5,000万 bu 増加すると予想します。輸出が3億5,000万 bu 増、エタノールが1億増と考えております。6月末時点の輸出累計成約高が25%まで既に進捗しており、例年同時期は6-7%しか進捗していない中で、18%前後大きくアヘッドしているので、かなりコンサバな数字で置かれているなという印象です。南米が減産の流れですので、基本的に米国産の競争力が高まる流れと考えられ、2020/21年度同等まで期待されるも、中国需要は中国豚肉価格暴落していること、中国国内トウモロコシが豊作見込みであること、中国政府の命令で大々的に他原料への代替が進んでいることを踏まえると、29億超えは過剰と思われ、28億 bu と予想しております。

---

エタノール需要の52億buのUSDA見通しは、エタノール日時生産量にして101万バレルとなりますが、コロナ発生前の過去3年の平均が約103万バレルである中、既にガソリン需要回復によりコロナ前のレベル感まで戻っていることを考えると、103万バレルレベル、トウモロコシ需要にして53億buは達成されるところと考えております。

飼料需要は据え置きとし、これらを踏まえると期末在庫率は5.82%になります。

司会 ありがとうございます。この数字を聞くと、変更したくなる人がいるかもしれませんが、周りの人の意見に流される必要はありませんので。では、藤原さん、いかがですか。

藤原 当社は期末在庫の予想を8%ちょうどで見えています。期初在庫を約10億buと置いて、作付面積は先週発表の9,270万エーカーを据え置きにしています。

ただ、単収に関しては、USDAが発表している179というのはちょっと行き過ぎだと思っていますので、177で置いています。

一方、飼料需要はUSDA比1億2,500万bu増、エタノール需要は1億bu増、輸出は約28.5億buを予想していきまして、期末在庫率は約8%になるであろうという考えです。

司会 ありがとうございます。では、兼松の高橋さん、いかがでしょうか。

高橋 弊社は楽観シナリオとして8.15%で予想しています。供給サイドは作付面積100万エーカー増の9,370万エーカー、収穫面積8,570万エーカーに対し単収は177bu/エーカー、旧穀繰越在庫は9億8,200万buにて予想しております。

需要サイドは、国内需要はUSDA月例報告そのままを予想を建てておりますが、輸出需要に関しては、南米減産懸念と新穀セールスの進捗状況から見ると2億buほど上振れしてもおかしくないと予想しております。

司会 ありがとうございます。では、三菱商事の遠藤さん、いかがでしょ

---

うか。

遠藤 旧穀期末在庫率6.7%の予測とほぼ変わらず、6.8%と予測しております。新穀の作付面積については、歴史的に6月の発表から大きく上方修正されないことを鑑み、作付面積はほぼ確定したと予想しております。単収はUSDAの179.5という予測から、175.5くらいまで下がると予測しております。

司会 ありがとうございます。双日の長谷川さん、いかがでしょうか。

長谷川 7.9%に設定いたしました。作付面積50万エーカー増の8,400万エーカー、単収1.6bu/エーカー減の177.9bu/エーカーに設定し、需要サイドで輸出需要のみ5,000万bu増の5,750万buと推測しております。

司会 分かりました。では、最後に三井物産加藤さんお願いします。

加藤 先ほどの旧穀期末在庫率の見解は楽観的でしたので、今度はあえて悲観的な見地に立って申し上げます。結論から申し上げますと、丸紅さんの数値に近いのですが、5.6%という数値は想定し得るのではないのでしょうか。単収に関しては、過去約30年間のグッド・エクセレントの割合と、実際の単収仕上りの相関性を分析すると、あくまで計算上での話ですが、今年の数値が174と計算されます。

様々な前提の置き方があるので、計算によって結果は異なると思いますが、単収をこちらで置き、作付面積は従来市場で予想されていた9,400万エーカー、収穫面積は過去に倣って作付面積のおよそ91%で計算し8,550万エーカーと置きます。需要サイドは輸出を思い切って20/21年同様に28億5,000万buと置くと、5.6%と算出されます。シナリオとしてはこのような形もあってもおかしくないかと思えます。

司会 ありがとうございます。結果的に新穀と旧穀は逆となり、新穀の期末在庫率を一番低く予想したのが三井、一番高く予想したのが伊藤忠さんということになりましたが、一社も10%台に回復するとは見ていないということが分かりました。私も最終的に10%を切るかなと思っていますが、米国の作付けは概ね順調と報告されている現時点で10%台となることを誰も予想し

---

ないということは、皆さん将来的にも強気なトレンドを予想しているということですね。

そして、次の話題にも絡むのですが、他産地の生産動向も市場を賑わしていますね。他産地の供給も減少すれば、米国産の需要が更に増加することになりそうです。

『Feed Trade』の読者の方々も米国産のみならず、他産地の動向、特にブラジル、アルゼンチン、更に今年はウクライナも存在感を出してくる事が予想されますので、三菱商事の遠藤さんに動向を分析していただこうと思います。よろしくお願いします。

### ●他産地のトウモロコシの需給動向

遠藤 他産地は、ブラジル、アルゼンチン、南ア、ロシア、ウクライナについてお話いたします。

まず、ロシア、ウクライナ、南アフリカについてお話いたします。

ロシアの生産量は、20/21クロープで1,390万トン、21/22クロープで1,490万トン程度と予測しております。輸出量は、20/21クロープで310万トン程度、21/22クロープで410万トン程度と予測しております。

ウクライナの生産量は、20/21クロープでは3,000万トン程度で、21/22クロープでは大体3,700万トン程度と予測しています。輸出量は、20/21クロープが大体2,300万トン程度かと思います。21/22クロープは、輸出量が増加し、3,000万トン程度と予測しています。

南アフリカの生産量は20/21クロープで1,700万トン程度、21/22クロープも同様に1,700万トン程度だろうと見ています。輸出量も、20/21と21/22クロープは大体同じ数量と見ていまして、400万トン程度と予測しています。

アルゼンチンでは、7月1日時点の収穫進捗率が67%でしたので、5年平均が69%という中、平年並みの収穫進捗になっている状況かと思います。

生産量は20/21クロープで4,700万トン、21/22クロープでは5,300万トン

---

程度まで増加すると予測しております。

輸出については、20/21クロープで3,400万トン～3,800万トンと見ております。21/22クロープでは、3,600万トン程度と予測しております。

最後は皆さんが注目されているブラジルですが、なかなか難しいところです。直近では、二期作目の収穫が始まったばかりで、直近数年対比かなり低い収穫進捗になっております。

更に、皆さんもご存じの通り、5月には乾燥懸念がありました。直近ではパラナ州とマットグロッソ・ド・スル州で寒冷的な天候が観測され、150万トンから300万トンの生産量減少になったという予想がありました。また、生産量には影響がないものの、品質が悪化したという予想もあり、追加の調査が待たれるところであります。

直近では、USDAが9,850万トン、CONABが9,650万トンの生産量予測を発表しておりましたが、9,000万トンを下回り、8,400万～8,800万トン程度まで生産量が落ち込むという予想が出ております。このような状況下、輸出量はUSDAの予測は3,300万トンでしたが、実際には2,200万トン～2,400万トンになると予測しております。

新穀、21/22クロープの生産量は1億1,800万トン程度と見ています。輸出量は、4,000万トン程度という見方です。まだ初期の段階ですので、今後変動すると思います。

特にブラジルについては見方がいろいろあるかと思しますので、皆さんのご意見も伺いたいと思います。

司会 ありがとうございます。ブラジルの生産量が9,000万トンを割り込むことになれば、そのまま連動して輸出余力が低下することになりそうですね。この辺のご意見は、後々のFOBプレミアムの動向やシカゴ定期の見通しのパートでも言及いただきましょう。

米国産の需給が引き締まり、ブラジル産も減産となればこの先、ウクライナ、アルゼンチンが競争力を持った産地として存在感が出てくるのではない

---

かという意見でしたね。

過去、2012年のトウモロコシの大相場の際には、飼料穀物においてはマイロが代替主原料として配合比率が高まりました。今やマイロはトウモロコシ価格を上回る原料となっておりますが、トウモロコシの代替となる主原料の動向について、豊田通商の藤原さん、お願いします。

### ●主原料代替原料の動向

藤原 皆さんもご存じのように、本邦向けのマイロの需要面は大きく減少しています。米国産マイロという意味では、輸出で中国向けにかなり出てしまっていますが、生産量は大きく伸びておらず、期末在庫率は、昨年・今年と約4%台まで落ち込んでいると思われれます。今後も基本的な産地としてはアルゼンチンや豪州だろうというイメージは持っております。

主原料の代替原料という意味でいうと、ちょっと話は変わりますが飼料米があります。国民の食生活の変化もあって、主食である米の需要はかなり落ちていて、トウモロコシの価格が高騰しているの、割安な米にシフトしている流れとなっております。各飼料メーカーで配合比率の違いはあれど、昨年対比約1~2%米の割合が増えているといわれています。

飼料米の場合は、単年契約もしくは複数年契約という契約形態を選べるシステムになっていまして、農家の高齢化に伴って単年契約を選ばれることもあるのですが、大部分の農家は、契約数量を先まで見積もりたいということと、ある程度売買価格を安定させたいといった理由で、複数年契約を選ばれています。複数年契約で期先3年後くらいまでは契約していますので、供給は大幅な減少にはならないと想定しています。

一方、米の占める配合比率がこれからどんどん上昇し続けていくかと言われると、そこはあまり現実的ではないかなと考えています。まず工場設備の観点、あるいは保管倉庫確保の問題等、物理的に大幅に増やせるものではないため、現状の数量を維持するのではないかと考えています。

---

司会 ありがとうございます。確かに代替主原料に関しては、輸入穀物ではなく国内の飼料米が鍵になる様子ですね。

とにかく主原料トウモロコシの供給はタイトという大きなベースの中において、FOBプレミアムの動向について、伊藤忠の島田さんよりご意見をお願いします。

### ●FOBプレミアム及び海上運賃の動向

島田 それでは、簡単にまとめさせていただきます。まず今のところFOBのUSガルフのプレミアムは非常に堅調だと考えています。

米国の輸出需要の大きなところは、10～1月積みの中国向けの搾油大豆、及び12～3月積みの向け地については中国を中心とした飼料用トウモロコシの2つの需要に分けられるかと思っています。

数量の多い大豆については、中国国内の搾油マージンが非常に低調なために、昨年と比べると中国の事前の買付け意欲は弱いのですが、10月積みまで時間もありませんし、各シッパーも需要が入ってくると期待していて、エレベーターマージンは堅調に推移しています。ということもあって、まずガルフのプレミアムは非常に堅調かなと。

続きまして、米国の西海岸については、ガルフよりも更に堅調かなと思っています。その理由は2つあります。

1つは、先ほど丸紅の浦丸さんもおっしゃっていましたが、西海岸向けのトウモロコシの産地にあたるコーンベルト西部に干ばつ懸念があって、実際にトウモロコシが出てくるかどうかという不安がある。もう1つは、USガルフに比べて中国までの航海期間が短いこともあって、ハンド・トゥ・マウス、当用買いができる産地でもあるので、需要としては非常に堅調なかなと。

後ほど丸紅さんから海上運賃のお話があるかとは思いますが、昨年比で海上運賃の絶対値が上がっていることもありまして、ガルフ対比西海岸のほう

---

がC&Fの競争力が極東向きには出るということも関連していると思っています。

一方他産地については、10月到着まで南米産及び南アフリカ産の競争力が非常にある状況かと思えます。

ブラジルの二期作サフリナトウモロコシの生産高については、非常に心配で、先週に起こった早霜の問題で更に生産量が減ってしまうのではないかと考えています。

そうやってきたとき、地中海沿岸及びヨーロッパ諸国は基本的に価格で産地を選んでおり、黒海沿岸周辺産、南米産の価格を比べているのですが、ここが南米産の競争力を失った関係で、ウクライナ産も地中海及びヨーロッパに買われるような形になってきて、全体的にFOBの他産地の競争力が下がってしまうのではないかと考えています。

司会 ありがとうございます。全体的な世界の供給減から連動して、FOBプレミアムも強含むという流れだと分かりました。

次に、高騰しております海上運賃動向について、丸紅の浦丸さん、お願いします。

浦丸 フレートについて、今年に入ってから振り返りと今後の予想をお話しさせていただきます。

今年に入りフレート市況は暴騰しております。ドライバルク全体の市況を示すBDIは7月2日時点で3,285となり、年初から約2.4倍、BPIは7月2日時点で4,269と年初から約3.1倍の値をつけ、2010年5月以来の高値となり、今もなおその勢いが止まりません。中国の経済回復、中国政府によるインフラ投資政策により、粗鋼生産量は今年1-5月の累計生産量は4億6,600万トンと昨年対比13.5%増という結果となり、鉄鉱石の1-5月累計輸入量も昨年対比5.9%となっております。ケープサイズを中心に船腹が逼迫し、一部パナマックスへの代替が見られ、パナマックスの船腹需給もタイト化してきました。

---

また、豪中の政治問題により、豪州産石炭を中国が輸入拒否することになり、EU等の遠方への輸送を余儀なくされ、船腹の効率性が低下しております。コロナ禍において、中国、豪州、南アフリカ等に本船入国する際、コロナ感染状況が重度なインド等の寄港国からの場合は一定期間の隔離を余儀なくされており、検疫強化に伴う停泊の増加が船腹供給不足を招いております。またコロナ禍からの経済回復により、消費財需要が一気に回復したことで、コンテナ船のフレートは大型バルク船同様暴騰しております。中国上海から米国ロサンゼルスコンテナ運賃は5月時点で40フィート6,000ドル／コンテナを超え、昨年同時期対比約3倍で、小型船の輸送に切り替える動きが見られており、スープラマックスのフレートを押し上げている状況です。結果、穀物船のパナマックス、スープラマックスは大型船、小型船の板挟みとなっております。市況はマクロ経済の影響や、政治、地政学リスク、為替など変動要因が多く、特にコロナ禍において先行きを見通すのは非常に難しいながらも、基本的には上昇基調が今後も継続するものと考えます。

要因は大きく2つ。まずその1つ目がこの先の船腹供給量です。2021年、2022年のドライバルクキャリアー全体の船腹増加率はそれぞれ3.1%増、1.2%増と減速し、船腹需要の伸び率に追いついておらず、船腹はタイト化をたどる見込みです。CO<sub>2</sub>削減に向けた世界全体の具体的な方向性が定まらず、新造船の発注は様子見が続いていることが大きな背景です。そんな中、国際海事機関IMOは6月18日に総トン数5,000トン以上の大型船に新たなCO<sub>2</sub>排出規制に関する条約を採択し、2023年から規制が開始されることが決定しました。燃費性能が評価し、基準値をクリアしない場合は、スピードを落とす、燃料転換、機器の設置、あるいは新造船に更新すること等が義務づけられます。これにより、より厳しい燃費効率が求められることになり、今後コストアップすると考えるのが自然と思われれます。

もう1つは、コロナワクチン普及による世界的な経済回復です。フレート暴騰を牽引してきた中国の粗鋼生産量については、少なくともこの先に一年

---

間は増加すると見ています。鉄製品の需要が旺盛で中国国内の粗鋼価格が高止まりしており、今後もこの流れが継続すると考えます。実際、中国は鉄製品の輸出に関して、これまで輸出税を還付していましたが今年5月から撤廃、一方鉄スクラップ等の輸入については無税にし、国内の鉄需要を賄う政策をとり、国内需要増をカバーするのに必死な状況です。原料となる鉄鉱石を国内で増やす動きはありますが、鉱山開発から鉄鉱石採掘まで時間を要することから当面は輸入に頼らざるを得ない状況が続くでしょう。また脱炭素化に向けて粗鋼生産量を抑える方針は中国政府から打ち出されておりますが、現在の鉄価格は生産者にとっては魅力的かつ需要も強いことから、実際の粗鋼生産量は減少するどころか増加の一途をたどっており、今後もこの流れが続くと考えます。また粗鋼生産量第2位のインドも、今年1-5月の粗鋼生産量は4,860万トンとなり、昨年1-5月対比33.6%増となっております。インド型コロナウイルス感染拡大下においても需要が増加していることが明らかとなり、この流れは継続されるでしょう。中国、インドの粗鋼生産量増は、原料炭の需要を大きく増加させることとなり、船腹は更にタイト化すると考えます。

まとめると、船腹供給量の減速、低燃費効率の流れ、コロナ禍回復傾向による経済回復からの鉄鉱石、石炭の需要増加により、今年下半期及び来年上半年期のフレート市況は堅調に推移すると予想しております。原油市況もOPECプラスで今後の方向性がうまくまとまらず先行き不透明な中、強材料に加わることとなりそうです。

司会 ありがとうございます。今の値位置が天井ではなく、まだまだ上昇トレンドというのが見方ですね。フレートも一度下落すると、そのスピードが速いと言う厳しいマーケットですが、世界経済の回復や、船腹需給の引き締まりを勘案すると、フレートも底堅いトレンドと見られているということで理解しました。

最後に、この会のメインイベントであります、9月末時点のシカゴ相場価

---

格（12月限と3月限）の予想をしていただきます。プロ野球の優勝予想では、愛するヤクルトスワローズは殆どのプロ野球解説者に最下位と予想されるも現在3位と健闘しており、如何にプロ野球の順位予想とシカゴの相場予想は当たらないことは歴史が証明しているわけですが、それではトップバッターは藤原さんをお願いいたします。

### ● 9月末時点でのシカゴ相場価格（12月限及び3月限）見通し

藤原 これはレンジですかね？ それともスポット価格ですか？

司会 レンジでいったら300～900セントの間だよ（笑）。お任せしますが、ある程度スポットでお願いします。

藤原 スポットで言いますと、私はちょっと楽観的に見ていまして、12月限が520、3月限はキャリー10セントで530と見ています。これは、ちょっと下がってほしいなという希望も含めてです。ただ、うちは旧穀の期末在庫率は7%と見ているのですが、新穀は8%とちょっと上がっているのも含めて米国の生産量等々に期待したいという形で、520と530です。

司会 では、長谷川さん、どうですか。

長谷川 藤原さんのお話を伺って、言うのが怖くなってしまいました。期末在庫率を旧穀6.9%、新穀7.9%と低くめに見積もっており、これから第二の輸出国であるブラジルからの供給量増が見込めない中、また直近の40セントストップ高の動きを見ていると、100は簡単に推移してしまうのではないかと。9月末時点で12月限678、3月限685、少し低めに見積もってこの程度かと考えております。

司会 もうちょっと高いかと思いましたが、意外と低かったのでびっくりしました。

では、高橋さん、どうですか。

高橋 9月末時点12月限で610、3月限で616で見えています。楽観シナリオとしては8%台の新穀在庫率を予想しておりますが、これまで述べた通り、旧

---

穀は織り込み以上にタイトな環境、単収は下方修正となれば足許の旧穀レベルまで上がる予想をしております。

司会 では、三菱商事の遠藤さんお願いします。

遠藤 12月限については、650を基準とし、上下50セントのレンジで変動すると考えております。3月限については、インバースとなり、550を基準として上下50セントのレンジで変動すると考えております。

ベースは期末在庫率予測ですが、期近限月になるにつれ、金融緩和の影響による過剰流動性の影響が少なからずあるだろうと見ています。なので、テーパリングが意識される局面になると、相場は下がってくるかもしれません。ベアシナリオとして、テーパリングのリスクを念頭に入れつつも、基準として12月限は650、3月限は550という予測をしています。

司会 ありがとうございます。丸紅の浦丸さん、いかがですか。

浦丸 12月限は690、3月限は700と見ております。受粉期を乗り越えられるか、米国のテーパリングがいつから開始されるかが肝と考えております。

天候に関しては、コーンベルト北西部を中心に今後1カ月間は高温乾燥の天候が続く見込みであり、既に北部を中心に干ばつ状況であることから、受粉障害が生じると考えております。よって7月末頃には12月限3月限ともに750セントレベルまで上昇すると考えております。その後8月に入り継続する天候相場で上下にボラタイルな展開が予想されますが、8月後半から8月24-26日に開催されるジャクソンホール会議に向けてテーパリングの開始時期が改めて意識され相場は徐々に下落すると考えます。7月2日に発表された米国雇用統計は雇用者数が10カ月ぶりの大幅増加となり、経済活動復活による新規雇用再開が進んでいることが示唆されました。また、50州の内25州は失業手当が7月上旬に打ち切れ、今後より一層雇用回復が加速すると予想され、それに応じたテーパリング早期開始期待から、商品相場全般的に弱基調になる展開がくるのではと考えます。とはいえ、トウモロコシの新穀期末在庫率は5.8%レベルを弊社は予想しており、価格は下支えられると思われ、

---

700セントレベルで落ち着くと考えます。

司会 ありがとうございます。では、三井の加藤さん。

加藤 個人的な見解といたしましては12月限が510～520セントの間、3月限が520～530セントの間になると予想いたします。冒頭で申し上げたとおり、短期的には再び弱含むと見ております。5月中旬以降、6月下旬までは12月限は下げトレンドを形成していました。発表の日一気に40セント上げましたが、発表内容自体、この時点で大幅な減産を示すものではないということ踏まえると、一時的には再び発表前のトレンドに戻っていくのではないかと予想しておりまして、今申し上げた数値になるのではないかと思います。

司会 分かりました。では、大トリ、伊藤忠の島田さん、お願いします。

島田 全然おもしろくないのですが、12月限は570で、3月限が580です。弊社の期末在庫率が今の足元とほぼ変わらないという形で推移していることもあって、この数字を置かせていただいています。

司会 ありがとうございます。皆さん、期末在庫率を悪いと言っているわりにはシカゴ先物価格は結構下がると予想しているのが、個人的には「いとをかし」でした。9月末時点で、Z—H間を10セントのキャリーと予想された方は新穀でそれなりに収穫できると期待されている一方、三菱商事の遠藤さんは100セントのインバースを予想されており、新穀も期待どおりに収穫できず引き続き世界的に需給がタイトとなるシナリオも念頭に置かれているのだと思います。

基本的には需給状況がタイトな状況が続き、ボラティリティが高い1年間になりそうですが、読者の方々に少しでもお役に立てる情報をご提供できれば嬉しく思います。

それでは、本日は長い時間ありがとうございました。

---

---

# New Balance

---

---

< 6 >

岩崎食料・農業研究所 所長  
岩崎 正典

---

---



## 失敗の許されない2021年産の米国穀物需給動向

「驚きがない発表はなかった」と言われる米国農務省からの統計資料は、3月31日の発表でもトウモロコシや大豆定期のリミット高をもたらし、新穀限月が約定高値を更新、旧穀限月も2013年夏以来の高値になった。4月5日から天候相場の開始を告げる週間作況作柄進捗報告が始まり、4月9日には四半期在庫報告に基づく月例需給予測の改訂が発表になった。

### \*期待外れに終わった、新穀の作付面積予測

農家作付意向面積（3月31日発表）

21/22年度	意向面積	市場予想	観測会議	前年実績	相異
トウモロコシ	91,144	93,208	92,000	90,819	325
大豆	87,600	89,996	90,000	83,074	4,526
全小麦	46,358	44,971	45,000	44,349	2,009
内 冬小麦	33,078	31,811	n.a.	30,415	2,663
内 春小麦	13,280	13,285	n.a.	13,934	▲ 654
三品合計	225,102	228,175	227,000	218,242	6,860

単位は千エーカー。米国農務省、農家作付意向面積報告等より転載。

今回の驚きは、農家作付け意向面積が市場関係者の事前予想を下回り、昨年秋からの価格高騰による増産要請が農家の耳に届かず、四半期在庫報告でも消費の減退が確認出来なかったことであった。大平原諸州では昨年秋に播種された冬小麦が冬場の休眠期を終えて、3月から温暖な気候の下で再成長を始めた。2月中旬の大寒波による凍害が心配されたが、作況評価の優と良

好に合わせて53%と休眠期入り時点の46%より向上したことで安堵感を与えた。南部産地で土壤温度がトウモロコシの発芽水準に上昇して、全米の播種作業が平年並みで始まった。米国穀倉地帯の天気が、作柄に協力的な推移になったが、肝心の農家の増産意欲は市場の期待を下回った。

2月中旬に開催された農業観測会議では、米国農務省は新穀年度の作付面積がトウモロコシと大豆、そして小麦の合計で227.0百万エーカーと予測した。市場は、中国向けの旺盛な輸出需要を前提に、3大穀物合計の作付面積を228.2百万エーカーと見込んだが、3月前半に行ったアンケートに基づく、農家作付け意向面積は前年実績より7.0百万エーカー（3.2%）多い225.1百万エーカーと発表され、トウモロコシは91.14百万エーカー、大豆が87.60百万エーカーそして全小麦は46.40百万エーカーになった。

世界各国の気象台がラニーニャ現象の終息を今春末と予想し、北米やユーラシア大陸西側でも、天候推移が穀物生産に好都合になったので、昨年秋からの価格急上昇を考慮すると、農家の新穀に対する増産意欲を信じて疑う雰囲気はなかった。3月下旬にはIGC（国際穀物理事会）が最初の新穀需給見通しを発表して、中国などからの旺盛な需要を満たすに十分な大型の供給体制を示したことで、米国農家も農業観測会議の数字を超えて増産に応じられるものと、市場関係者は確信していた。農家の予定通りの作付面積が実現するには、中西部での4-5月の天気が大きく影響する。2年連続して悪天候が播種時期を見舞った経験から、新穀年度の需給改善には予定以上の面積が必要になると判断した市場は、遅まきながら農家に対して増産を要請せざるを得なくなった。

### **\*高値による消費の減退が起こらず、輸出船積みも高水準を持続**

3月1日時点の四半期在庫は、大豆を先頭に3品揃って前年同期を下回った。12-2月期の消費が前年度を大きく上回ったことは、流通年度の後半に向けての現物供給量が減少したことになるので、端境期の需給操作が困難になると判断され、旧穀限月も上昇した。中でも大豆は、今年度の現物供給余

力は1,564百万ブッシェルと推定され、昨年下半年の消費量1,731百万ブッシェルを下回ったことで、前年並みの消費が出来なくなり、昨年下半年に567百万ブッシェルの実積があった輸出需要の抑制が必要になった。トウモロコシは7,700百万ブッシェルの現物供給余力となり、昨年下半年の消費実績が6,031百万ブッシェルであったので、かなりの余裕が感じられる。ところが、前年同期はコロナ禍によりエタノール用途の消費が激減した期間であり、輸出需要も中国向けの実績がなかったことを考慮すると、必ずしも豊富な現物供給量ではないと理解された。

#### 四半期全米在庫

	2020年	農場在庫	農場外在庫	合計	2021年	農場在庫	農場外在庫	合計	前年比
トウモロコシ	3月1日	4,454.0	3,497.6	7,951.6	3月1日	4,036.5	3,664.1	7,700.6	▲ 251.0
	12月1日	7,046.0	4,247.8	11,293.8					
全小麦	3月1日	338.7	1,076.7	1,415.4	3月1日	283.9	1,030.3	1,314.3	▲ 101.1
	12月1日	483.5	1,219.2	1,702.7					
大豆	3月1日	1,011.5	1,243.4	2,254.9	3月1日	594.0	970.2	1,564.2	▲ 690.7
	12月1日	1,308.5	1,638.2	2,946.7					

単位は100万ブッシェル。

#### \* 4月度の需給報告は、トウモロコシ需給が一段と引き締まる

米国農務省は四半期在庫調査で判明した消費動向を年間の需給見通しに展開して、トウモロコシの期末在庫を150百万ブッシェル引き下げて、7年振りの低水準になる1,352百万ブッシェルに下方修正した。対消費在庫率は9.2%と、端境期の現物供給が引き締まることが印象付けられると、シカゴ定期の5月限は595セントの約定高値を更新して7年半振りの高値を付けた。トウモロコシの輸出需要は、中国の大量輸入により前年比897百万ブッシェル(50%)増加して、過去最高の2,675百万ブッシェルと予測された。

一方、中国ではトウモロコシが小麦を上回る高値で推移し、小麦の備蓄在庫が飼料用途に大量に放出されたことから、小麦の飼料用途の消費が年間40百万トンに引き上げられる等、中国での飼料穀物の需給引き締まりが、米国需給にも波及することになった。しかし、これまでの国際市場を先導してき

大豆は、中国の養豚業界がASF（アフリカ豚熱）の再発に見舞われて、大豆ミールの消費が不透明になったとして、米国農務省が中国の搾油消費を下方修正したことや、ブラジル産新穀の出回りが本格化したことで、大豆の値が抑制された。

新穀年度の供給総量は、前年度からの繰越在庫＋新穀の生産高＋輸入の合計で示されるが、4月度の需給報告は、今年度の期末在庫（次年度への繰越在庫）推定を通じて、端境期の現物供給事情と同時に、次年度の需給に手掛かりを与えた。米国農務省は、農家作付け意向面積と傾向値単収を基に新穀の作柄見通しを計算して、5月度から新穀年度の需給予測を開始するが、需要は農業観測会議で披露された机上計算に、今月の推定値が大きく影響することになる。ワクチン接種の普及とバイデン政権の積極的な財政出動により、米国の経済成長は6%強が見込まれるようになり、世界経済への波及効果が大きいと期待されている。そして米国農務省やFAOは、中国での飼料穀物の需要増大から、新穀年度は生産が消費に届かない可能性を示唆するようになった。播種作業が順調に捗り、新穀に増産の手応えが感じ取れるのか、それとも天気に災いされて足元の消費動向に一段の節約を呼び掛けることが求められるのか、市場心理が定期的逆鞘体系に反映されることで、新穀年度の需給予測が始まる5月度の需給報告に向けて価格変動性を高めることになった。（参考図、作付面積の推移を参照願う。）



＝参考図、米国の作付面積推移＝（出所：旧伊藤忠商事コンコルド穀物情報の資料に、筆者が加筆修正）

## \* 4月上旬から世界各地に天候懸念が浮上し、定期価格が急上昇

恒例の週間作況作柄進捗報告が、イースター明けから始まるや否や、世界の主産地から冬作物の生育や春作物の播種作業に心配な天気予報が報じられて、天候相場の始まりを告げた。米国は大平原北部の春小麦産地（大豆やトウモロコシの増産が期待される地域）で、名残り雪や俄か雨があったが干ばつ状況を和らげるには程遠く、フランスは厳しい寒気に見舞われて冬小麦の凍害が心配され、ブラジルは南部産地の降雨不足が二期作トウモロコシの作柄見通しに不安感を強める等、市場の関心を足下の需給引き締まりに引き戻すことになった。

トウモロコシは現物ベースが強地合を維持し、ブラジル二期作への作柄懸念が新穀限月を5ドル台に押し上げた。大豆は、中国向け船積みがブラジル産に移行したことが弱材料になって14ドルの節目を割り込んだ。中西部で向こう2週間は低温乾燥気候が定着すると天気予報が投機筋の思惑買いを誘い、大豆の旧穀が14ドル台に戻ると旧穀トウモロコシは6ドル、そして小麦は6.50ドルの節目にと買い進まれた。小麦には中国の買い出動の噂、大豆には植物油相場の高騰、そしてトウモロコシにはブラジル二期作への不透明感やブラジルでのエタノール需要の増加（砂糖相場の上昇）と、3品それぞれに強材料が提供された。旧穀トウモロコシは、農家の販売目標の6ドルに到達したことが、産地の荷動きを改善させて旧穀の上値が抑制されたが、新穀は512セントの約定高値を更新して騰勢を維持した。外部市場では、株式市場の高値更新に追随して、実物商品を代表する原油も終に揉み合い圏を上抜けた。中国経済の復調が実物商品の需要拡大を連想させる中、米国金融当局の強気の経済見通しを裏付ける地区連銀報告に続いて、小売り売上高や雇用統計で、足下の経済活動の復調が確認された。国債利回りが予想に反して低下すると、投機資金が株式市場に集中して、“Trend is your friend.”（流れに逆らうな）の環境が整った。

## \*2013年初夏以来の高値が出現

今年の天候相場の始まりは、オバマ元大統領時代の価格高騰期を思い出させることになった。当時は、ロジャー・スミス氏に代表される商品ファンドが実物商品時代の到来として、中国やアジア諸国の旺盛な消費需要が、供給体制の脆弱な農産物市場に向かえば、価格の高騰は測り知れないとして、買持の取組方針を推奨する中、世界の主要産地の天候不順や米国ドル安がその流れを後押しした。物事が成就するには、ファンダメンタルズと、テクニカルとの両方が備わることに加えて、外部市場の環境が豊富な投機資金を供給することが必要になるが、今回は米国を初め世界各国が新型コロナ対策として超緩和の金融政策を推進したことで、コスト（金利）がゼロに等しい投機資金が商品先物市場へと潤沢に供給された。即ち、今回の投機が起こった外的環境は、エルニーニョやラニーニャ現象をもたらす地球を取り巻く大気の変動による作柄への不安ではなく、株式市場の過去最高値の更新に示されるように、マクロの経済環境が大きく影響している。

シカゴの穀物定期は、揉み合い圏を抜け出すと足早に上昇トレンドを形成したが、その切っ掛けは米国農務省の統計資料であったので、ファンダメンタルズ（需給の引き締め懸念）と言える。出発点は、昨年の米国産トウモロコシや大豆の作柄が、当初の見込みよりも大きな減産に終わる中、南米産の新穀出回りも期待外れになったことが状況を悪化させた。実際の数量はそれほど大きな減産ではなかったが、南米産大豆の降雨不足による生育遅れや収穫期の降雨過多などの天候不順が、国際市場への供給を不安視させる中、一早くコロナ禍を克服した中国が米中通商合意を順守して、米国から大豆に続いてトウモロコシやソルガムそして小麦の買付けを進めたことで、株高を商品インフレの前兆と読み替えた商品ファンドが、原油の後追いで穀物市場に資金を配分し騰勢を煽った。

4月からのシカゴ定期高騰は、トウモロコシ需給の引き締め観測が発端になって、小麦や大豆に波及した。米国農務省の期末在庫見通しが示唆した

ように、米国の現物市場は引き締まり傾向を強め、産地では限られたトウモロコシや大豆の現物を輸出市場と地場の実需（エタノール工場や搾油業者）との間で奪い合うようになった。米国農務省の全米在庫調査の集計に誤りがあり、実際はそれ以上に在庫が少ないという憶測も流れたが、農家が播種作業を始めれば、春の農作業が終わる6月中旬まで、農家からの現物持込は期待できないという季節性が働いた。通常はシカゴ定期の高騰に連れて、現物の供給不足は解消に向かうが、今年に限っては逼迫感がより一層強まった。低温乾燥気候が新穀トウモロコシの播種作業を遅らせると同時に、新穀冬小麦に凍害のリスク、北部の春小麦地域には土壌水分不足と、次々に懸念材料が浮上して、高値だけでは農家の販売を誘うことが出来なくなった。

こうした状況下で窮地に陥ったのは、オプション市場でのコールの売り手であった。トウモロコシの権利行使価格は、4月1日の560セントから、4月23日の納会日には655セントにと95セントも値位置を切り上げたが、4月1日時点では行使される確率が低いと判断された6ドル台のコールが、次々と権利行使に値するものへと変化してきた。コールの売り手は期日の到来に合わせて買持を準備しなければならないが、シカゴ周辺の現物市場で、期近定期に近い価格で取引されることが確実になれば、定期市場に買いヘッジを行った実需家はそのヘッジを解消する可能性は乏しく、買い手が圧倒的に有利な環境が出来上がった。買が買を呼ぶのは投機の世界であるが、今回のように現物市場が後押しするのであれば、現物の引き受け手がなくなるまで、売り手は買い戻しを余儀なくされる可能性が高くなったのが、今回のオプション市場であった。

ファンダメンタルズが強気に傾く中、マクロの経済環境もテクニカルな指標も全てが強材料になったことで、4月下旬には旧穀限月の価格が3品揃って数年振りの高値、トウモロコシは6ドル半ば、大豆は15ドル台、そして小麦も7ドル台に上昇すると、新穀トウモロコシも5ドル半ば、大豆も13ドル台にと値位置を切り上げ、新穀と旧穀との間に大きな逆鞘体系が形成された。中国で穀物需給の逼迫に備える政府の動き、ブラジルの二期作トウモロコシ

地域の土壤水分不足，そして植物油の著しい供給不足などの話題が，連日のようにメディアで報じられるようになった。

## \* トウモロコシが先導したシカゴ定期の高値

春作物の播種作業が始まった直後の4月中旬に米国穀倉地帯に寒気が広まり，コーンベルトの北西部から大平原北部一帯での土壤水分の不足が気の早い作柄懸念を呼んで，天候相場が本格化することになった。4月末日から5月限月に対する現物受渡し通知が開始され，シカゴ周辺の現物需給の引き締まりがシカゴ定期の強材料に加わった。シカゴ定期が現物市場との連動性を保つ所以である現物受渡しを巡る思惑が強まり，値幅制限が解かれた4月30日はトウモロコシの上昇幅は38.00セントとになり，大豆の28.50セントを上回った。トウモロコシの5月限が，6ドルの大白に乗ったのは4月20日のことで，2013年7月以来の7ドル台を付けたのは僅か一週間後の4月27日であったが，その騰勢を維持して740セントで5月限の現物受渡しが始まった。

飼料穀物として代替性のある小麦との較差は，僅か2.50セントになり，大平原諸州で小麦が飼料用途に使われるようになった。トウモロコシと新穀の作付面積争いが想定される大豆は，トウモロコシの後追いで16ドル台を付けたが，その勢いを強めることなく15ドル台に後退した。米国農務省の需給予測では，大豆の期末在庫は薄氷を踏むような状況が示されたが，端境期の乗り切りについては，早植え大豆面積の増加による前倒しの新穀出回り期待，そして採算次第では南米ブラジルから東海岸への輸入等により，最悪の事態が回避されるとの見方が増えてきた。その結果，5月限に対する現物受渡し通知は，トウモロコシはゼロであったが，大豆は66枚，そして小麦はシカゴ定期にはゼロであったが，カンザスに590枚，ミネアポリスで337枚と何れも作柄不安が語られるHRWとHRSに対しても現物受渡し通知が提出された。旧穀の需給に対する市場の理解が，小麦や大豆には今の価格水準が当面の最高値という理解がある一方で，トウモロコシには高値圏への達成感を感じさせなかった。

チャートに示されるトウモロコシの上げ足の強さから、投機筋が「モウはマダ」と上値余地を楽しみに、利食いを手控えているものと推察された。ブラジルの産地業者が、ブラジル二期作の作柄予想を大幅に下方修正したことや、5月もブラジル南部に高温乾燥気候が持続するとの天気予報になったので、米国産（またはウクライナ産）の新穀出回りまでは、トウモロコシの供給余力の大幅な改善は見込めないことが強材料になった。そして、市場の認識が週間輸出検証高の相異となって顕在化した。トウモロコシは直近に1,951.0千トンもの大量の船積みが行われたが、大豆は233.9千トンにとどまり、中国が米国産トウモロコシの輸入を必要とする一方で、遅れていたブラジル産大豆の船積み履行で中国の搾油需要が充たされているという現実が、両者の相異になって示された。

4月を通じての、5月限の変化は下記の通りであった。（単位は、セント／ブッシェル）

	トウモロコシ	大豆	小麦
4月1日	559.75	1,402.00	611.00
4月30日	740.00	1,571.00	742.50
変化（率）	180.25（32.2%）	169.00（12.1%）	131.50（21.5%）

4月は投機筋の買い出動がトウモロコシに集中して、小麦や大豆がそれに追随したことが確認された。トウモロコシの騰勢は、経済活動の再開によるエタノール用途の消費回復や、レストラン等での外食需要など、前年同期と正反対の需要拡大に対する期待感であったが、ブラジル二期作トウモロコシの作柄悪化が、トウモロコシ需給の更なる逼迫化を懸念させた。一方、大豆はブラジル産大豆の収穫は概ね終了しているために、支援材料は大豆油の需給逼迫懸念にとどまり、残念ながら外部市場との関連性の乏しい小麦は、トウモロコシに対する代替性という観点からの連動が起ったと言える。

### \* トウモロコシが先導したシカゴ定期の急反転

米国農務省の5月度需給報告は、新穀年度の需給予測が示されることで、初回の実施調査に基づく8月度の報告、そして最終の作柄推定に基づく1月度

の報告と並ぶ重要な月次報告である。その発表を前に、実需が大量の買付けに動くことはあまり例がなかったが、今回は中国向けに新穀年度でトウモロコシの大口成約報告が浮上した。労働節（メーデー）明けの5月7日から5月12日までに中国は、合計3,060千トンの新穀トウモロコシを買付けし、その後も追加調達を進め、最終的には10,744千トンの成約高になった。中国の需給規模や畜産物の飼養動向に様々な憶測が流れていたが、米国中西部の播種作業が未だ終わっていない段階で、新穀トウモロコシに大量買付けがあったにもかかわらず、トウモロコシのシカゴ定期は5月7日の過去最高値（7月限—732.25セント）から1週間程の間に1ドル近くの後退を見せた。強気相場には、毎日の強材料が必要になると言われるが（Bull must be fed.）、5月の需給報告に目新しい強材料を見出せずに、市場は強材料が出尽くしたと受け止めた。

#### ①旧穀トウモロコシの米国需給

旧穀年度は、輸出需要が100百万ブッシェル引き上げられて2.775百万ブッシェルに上向き改訂された。その他産業用途で5百万ブッシェルの需要減退見込みと一部相殺になったが、95百万ブッシェルの需要増加により期末在庫は1,257百万ブッシェルに下方修正された。（前月予測は1,352、市場予想は1,275。）対消費在庫率は8.5%になり、端境期を約1カ月の現物供給で過ごすことになった。農家価格見通しは前月より5セント多い435セントに改訂され、期近限月が8年振り高値圏にあるという需給環境が追認された。なお、世界の需給見通しは、ブラジルのトウモロコシ生産高が前月予測より7百万トン少ない102百万トンに下方修正された。市場ではもっと厳しい見方もあったが、世界の期末在庫の減少に繋がることなく収まった。アルゼンチンは47百万トンで据え置かれ、両国合わせて69百万トンが輸出市場に出回る見通しに変わりなかった。

#### ②新穀トウモロコシの需給バランス

新穀年度の作柄予測は農家意向面積の91.1百万エーカーの作付面積が出発点になり、収穫予想面積を83.5百万エーカーとして、単収は長期傾向値単収

の179.5ブッシェルが適用されて、生産高は14,990百万ブッシェルとなった。前年度より808百万ブッシェルの増産見込みになり、面積の増加1.0百万エーカーと単収の改善7.5ブッシェルが寄与する。前年度からの繰越在庫1,257百万ブッシェルと輸入の25百万ブッシェルを合わせた総供給量は16,272百万ブッシェルで、前年度より145百万ブッシェル多いだけで、繰越在庫の大幅な低下が影響した。飼料用途は5,700百万ブッシェルの見通しで前年度と変わりはなく、エタノール用途は社会の正常化が進む前提で前年度から225百万ブッシェル多い5,200百万ブッシェルとなった。

輸出需要は前年度より325百万ブッシェル少ない2,450百万ブッシェルと仮置された。南米諸国の作柄は期待外れに終わったが、ウクライナとロシアに増産による輸出余力の増加が期待されるので、米国産との競合が強まると予測された。このため、総需要量は14,765百万ブッシェルと前年度の実行見込みを105百万ブッシェル下回る見通しになった。供給の増加145百万ブッシェルと需要の減退105百万ブッシェルの合計250百万ブッシェルが期末在庫の増加に寄与して、繰越在庫は1,507百万ブッシェルと予測された。(市場予想は1,344百万ブッシェル) 対消費在庫率では10.2%に回復が見込まれるが、農家価格は570セントが予測されている。作柄がこの通りに実現するのかどうか、昨年の5月度は生産高が15,995百万ブッシェルで、期末在庫が3,318百万ブッシェルの需給予測で始まっただけに、数カ月後にどのような変化が起こるのか、机上モデルの思い込みは禁物である。なお、米国農務省は世界のトウモロコシ生産高を1,189.85百万トンと前年度より63.39百万トン(5.4%)の増産を見込み、期末在庫は292.3百万トンと8.77百万トンの回復を見込んでいる。北半球が播種作業の段階で多くを語ることは出来ないが、米国の農務省は中国の飼料穀物輸入量を今年度の43.25百万トンから46.30百万トンに拡大を予測して、トウモロコシは26.00百万トン(今年度と同じ)、大麦とソルガムには各10百万トンの輸入を見込んでいる。

### ③旧穀大豆の需給予測

大豆の需給見通しに何も変化はなく、市場は窮屈な現物需給が端境期を通

じて継続すると受け止めた。大豆ミールは輸入が小幅ながらも増加して、市場価格見通しが5ドル/st引き上げられて405ドルに改訂された。一方、大豆油はバイオディーゼル用の消費増が認められ、こちらも市場価格が55セントに引き上げられて、好調な製品需要が原料大豆の消費を下支えする構図が再確認されることになった。しかし、大豆の需給バランスは期末在庫見通しが120百万ブッシェル、対消費在庫率2.6%と、僅か10日弱の現物在庫で端境期を乗り切る見通しで、農家価格の1,125セントに変わりはなかった。世界の作柄動向は、ブラジルの生産高が136百万トンで据え置き、アルゼンチンは0.5百万トン少ない47.0百万トンに引き下げられたが、期末在庫は86.55百万トンで微減にとどまった。

#### ④新穀大豆の需給バランス

新穀年度の作柄予測は農家意向面積の87.6百万エーカーの作付面積が出発点になり、収穫予想面積を86.7百万エーカーとして、単収は長期傾向値単収の50.8ブッシェルが適用されて、生産高は4,405百万ブッシェルとなった。前年度より270百万ブッシェルの増産見込みになり、面積の増加4.4百万エーカーと単収の改善0.6ブッシェルが寄与することになった。前年度からの繰越在庫120百万ブッシェルと輸入の35百万ブッシェルを合わせた総供給量は4,560百万ブッシェルで、前年度より135百万ブッシェル少なくなり、繰越在庫の大幅な低下が影響している。

需要見通しは、堅実な製品需要を反映して国内搾油需要が前年度見通しより微増の2,225百万ブッシェルと予測される一方、輸出需要は前年度より205百万ブッシェル少ない2,075百万ブッシェルとの予測になった。中国の旺盛な輸入見通しに変わりは無いが、ブラジルやアルゼンチンなどの増産を前提にすると、米国からの輸出機会が低下するとの予測になって、総需要量は前年度よりも155百万ブッシェル少ない4,420百万ブッシェルと見込まれた。期末在庫見通しは140百万ブッシェルで、期首在庫を20百万ブッシェル上回る見通しになるが、需要の抑制で捻出された机上計算と受け止められ、大豆は厳しい需給環境が継続するとの印象を与えた。対消費在庫率は3.2%、農家価格予

測は1,385セントの予測になる。

南米諸国の比率が高まって新穀の作柄推定は暫定的なものになるが、米国農務省は世界の大豆生産高を385.53百万トンと前年比22.58百万トン（6.2%）の増産を見込んで、期末在庫も今年度末から4.55百万トン多い91.10百万トンを想定している。中国の搾油需要は今年度の96.0百万トンから100.0百万トンに拡大するので、輸入見通しも3.0百万トン増の103.0百万トンが見込まれるが、ブラジルに8.0百万トン増産の144.0百万トンに、アルゼンチンも5.0百万トン増産の52.0百万の作柄を見込んで、米国産の需要が後退するとの予測になった。

### **\* 目先の底値が確認されたか？ メモリアルディ前後の穀物市場**

中国の旺盛な新穀トウモロコシ買付けが市場で話題にされていたが、メモリアルディに向かって、中国が早くもその成約の一部を取り消した、または旧穀の契約を新穀での受渡しへと先送りに動いたとの噂が市場に流れた。3品ともにテクニカル地合の悪さや、新穀の生育に協力的な天気予報を材料に下値余地が探られたが、次第に月末要因が意識されて、投機筋がチャート上の底値感から買い戻しに動いた。週前半の弱材料であった中国によるトウモロコシの成約取り消しの噂が、週間輸出成約報告でその気配が確認出来なかったことで安心買いが広まった。終わって見ると、トウモロコシはこれまで5月7日の約定高値から5月26日までの下落分132.50セントが、3連休前の3日間で70セントの挽回を見せたので、半値戻し後の底値から54セントの反発で、週を通じて僅か2.75セントの小反落で終わった。

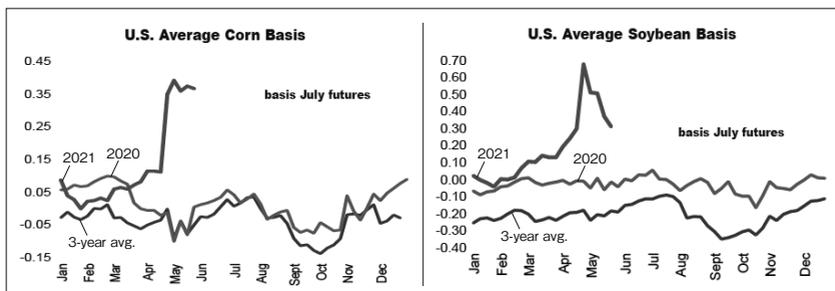
最近シカゴ定期の値位置が高くなったことで、些細なことでも値動きが激しくなる、値動きの一方向性というファンダメンタルズが機能しない相場の特徴が、トウモロコシに端的に示された。時期的には、メモリアルディという農業暦上の大きな転機を迎えているために、新穀の播種作業が一段落したことから、多くの市場参加者が、新穀の初期生育と農家の旧穀販売、そして新穀小麦の収穫開始にと、穀物相場の注目点を変更したと言える。今年は

主産地の大半で播種作業が順調に捗り、トウモロコシはコーンベルト西側では農家の当初予定の95~98%に達したので、追加で種子の手当が可能であれば、農家は予定を超えてトウモロコシの播種を進めるとの推定が弱材料になっていたが、7月限の6ドル（12月限の5ドル）の節目で、下値目標の達成感が広まった。メモリアルディの後は、トウモロコシの生育が受粉期に向かう次の節目になる独立記念日、そして早植え種が完熟するレイバーディまでの90日間を考えると、天候要因は、ここからは下値余地よりも、上値余地の方が大きいに違いないと言う判断だったと思われる。

大豆は、中国の買付けと船積みがブラジル産に集中しているために、米国大豆の輸出需要は開店休業状態に陥った。そうした輸出市場との競合がなくなったために、国内の搾油工場の現物調達意欲も低下してしまった。これまでは、実需家のないものねだりの高値追いが目立っていたが、今は当用買いに戻って、大豆の現物ベースは下図のように、前年度の水準に向けて修正が進んでいる。トウモロコシの現物は、エタノール工場の操業がコロナ以前の水準に戻って、船積みも好調さを保っていることと好対照な環境下になった。そのため、農家作付け意向面積の調査時点よりも、農家は大豆よりもトウモロコシの増産意欲を強めたという、産地情報になっている。旧穀大豆は15ドルの節目で踏みとどまったが、新穀大豆は13.25ドルに下押されたが、これ以上作付面積をトウモロコシに譲ることは出来ないと踏みとどまった。

現物ベース トウモロコシ

現物ベース 大豆



## \* 6月の需給報告を控え、小麦の作況評価の劣化が市場の関心を集める

今年は大平原南部で麦秋の到来が遅れる一方、コーンベルト北西部から春小麦産地、そしてPNW地域からカナダ大平原に向けての広い範囲で、土壤水分の不足が深刻化した。トウモロコシや大豆は未だ植物体としての水分必要度が低いので、単収見通しが心配される段階とは思えないが、米国農務省の作況報告では、この地域の小麦の作況評価が著しく低下して、俄かに新穀の作柄不安に備える動きが広まった。

6月の需給報告を控えての市場の話題は、経済活動の正常化に伴う需要の回復期待であった。トウモロコシはエタノール用途の消費が米国農務省の4月度統計で463.7百万ブッシェルと推定され、悪天候で3月より2.0%の減少になったが、前年対比で55.6%の増加になった。トウモロコシの消費量に換算すると4月は410百万ブッシェル、4月までの累計では3,279百万ブッシェルになったので、年間予測の達成に手応えを感じさせている。従い、このエタノールの消費動向に加えて、輸出船積みが高水準で継続し、南米ブラジルの大減産予想やアルゼンチンの物流問題（パラナ川の水位低下）などを加味すると、国際市場はトウモロコシの供給を暫くの間は米国に依存する状況が継続すると判断された。

大豆の4月度搾油統計は、米国農務省から169.8百万ブッシェルと発表された。3月の実績よりも18.4百万ブッシェル、前年同期を13.6百万ブッシェル下回るもので、4月までの8カ月の累計は1,471百万ブッシェルで前年比1.5%の減退になった。残り4カ月になった流通年度で、米国農務省の予測を実現させるには、窮屈になった現物需給の中で前年並みの消費を達成する必要がある。トウモロコシと異なり、ブラジルからの大豆出回りが最盛期を迎えて、米国からの中国向け船積みが中断して久しくなった。大豆は国内搾油消費も輸出船積みも、供給の限界が消費を抑制する状況になったと理解された。

そうした状況の下で、米国農務省から6月度の需給報告が次のように発表された。

### ①トウモロコシ

今月の改訂はエタノール用途の消費が75百万ブッシェル多い5,050百万ブッシェルに、輸出需要見通しが75百万ブッシェル多い2,850百万ブッシェルの過去最高にと上向き改訂された。旧穀年度の期末在庫が5月度から150百万ブッシェル減少して、1,107百万ブッシェルに下方修正された。その結果、対消費在庫率は8.5%から7.4%に低下したが、農家価格の改訂は見送られた。新穀年度の生産高は恒例により据え置きとなったので、前年度からの繰越在庫の減少150百万ブッシェルが総供給量の減少になった。また、新穀年度の需要予測も改訂が見送られたので、期末在庫見通しは前月より150百万ブッシェル少ない1,357百万ブッシェル、対消費在庫率は10.2%から9.2%に低下したが、農家価格見通しは570セントが据え置かれた。初期生育が始まったばかりで、実作付面積の推定も未だ公表されていない段階とは言え、足下の消費動向が確りしているため、期末在庫に余裕が失われつつあるので、これからの天候推移が新穀の作柄に与える影響に注視が必要になった。

### トウモロコシの需給予測

USDA報告月次	20/21 crop			21/22crop			前年比	前月比
	4月	5月	6月	(観測会議)	5月	6月		
作付面積	90.8	90.8	90.8	92.0	91.1	91.1	0.3	0.0
収穫面積	82.5	82.5	82.5	84.4	83.5	83.5	1.0	0.0
単収	172.0	172.0	172.0	179.5	179.5	179.5	7.5	0.0
生産高	14,182	14,182	14,182	15,150	14,990	14,990	808	0
期首在庫	1,919	1,919	1,919	1,502	1,257	1,107	▲ 812	▲ 150
輸入	25	25	25	25	25	25	0	0
総供給量	16,127	16,127	16,127	16,677	16,272	16,122	▲ 5	▲ 150
飼料用途	5,700	5,700	5,700	5,850	5,700	5,700	0	0
産業用途	6,400	6,395	6,470	6,625	6,615	6,615	145	0
エタノール	4,975	4,975	5,050	5,200	5,200	5,200	150	0
国内消費	12,100	12,095	12,170	12,475	12,315	12,315	145	0
輸出需要	2,675	2,775	2,850	2,650	2,450	2,450	▲ 400	0
総需要量	14,775	14,870	15,020	15,125	14,765	14,765	▲ 255	0
期末在庫	1,352	1,257	1,107	1,552	1,507	1,357	250	▲ 150
在庫率(%)	9.2	8.5	7.4	10.3	10.2	9.2	1.8	▲ 1.0
農家価格	4.30	4.35	4.35	4.20	5.70	5.70	1.35	0.00

注：面積は100万エーカー，単収はブッシェル・エーカー，生産・消費は100万ブッシェル。

その背景になったのが、トウモロコシの国際需給の引き締めであり、今月はブラジルの作柄見通しが98.5百万トンと前月の102百万トンから3.5百万トンの下方修正があったために、世界の生産高は1,125.03百万トンへ3.43百万トンの引き下げとなり、期末在庫は280.60百万トンに2.93百万トンの引き下げになった。なお、ブラジルの作柄見通しは90.0百万トン割れという悲観的な予想もあるために、今月で全てが織り込まれたとは言えない。新穀年度は今年度から64.82百万トン（5.8%）の増産が予測されて1,189.85百万トンの増産が実現すれば、期末在庫は289.41百万トンに期首在庫から8.81百万トンの回復が見込まれている。中国の輸入見通しはトウモロコシが26.0百万トンで今年度から変化はないが、飼料穀物合計では微増の46.3百万トンの輸入が見込まれている。

## ②大豆

旧穀年度の搾油消費見通しが15百万ブッシェル引き下げられて、年間搾油消費が2,175百万ブッシェルに下方修正されたため、期末在庫は前月予測より

### 大豆の需給予測

USDA報告月次	20/21 crop			21/22crop			前年比	前月比
	4月	5月	6月	(観測会議)	5月	6月		
作付面積	83.1	83.1	83.1	90.0	87.6	87.6	4.5	0.0
収穫面積	82.3	82.3	82.3	89.1	86.7	86.7	4.4	0.0
単収	50.2	50.2	50.2	50.8	50.8	50.8	0.6	0.0
生産高	4,135	4,135	4,135	4,525	4,405	4,405	270	0
期首在庫	525	525	525	120	120	135	▲ 390	15
輸入	35	35	35	35	35	35	0	0
総供給量	4,695	4,695	4,695	4,680	4,560	4,575	▲ 120	15
搾油消費	2,190	2,190	2,175	2,210	2,225	2,225	50	0
種子	102	102	102	110	104	104	2	0
その他需要	4	4	4	15	15	15	11	0
輸出需要	2,280	2,280	2,280	2,200	2,075	2,075	▲ 205	0
総需要量	4,575	4,575	4,560	4,535	4,420	4,420	▲ 140	0
期末在庫	120	120	135	145	140	155	20	15
在庫率(%)	2.6	2.6	3.0	3.2	3.2	3.5	0.5	0.3
農家価格	11.25	11.25	11.25	11.25	13.85	13.85	2.60	0.00

注：面積は100万エーカー、単収はブッシェル・エーカー、生産・消費は100万ブッシェル。

150万ブッシェル多い135万ブッシェルに引き上げられた。期末の対消費在庫率は2.6%から3.0%に小幅な回復となり、端境期の現物供給は11日程度と見込まれた。新穀年度の需給はこの繰越在庫の増加が直接、期末在庫の増加に反映されて155万ブッシェルに引き上げられた。対消費在庫率は3.5%なので、需給の改善と断言するには程遠い環境下にある。今回はトウモロコシ同様、農家価格予測の改訂は見送られた。

国際需給は、トウモロコシとは反対にブラジルの大豆生産高が前月より1.0百万トン多い137百万トンに引き上げられたこと等で、期末在庫は前回より1.45百万トン多い88.0百万トンに上向き改訂された。新穀年度はこの前年度からの繰越在庫の変動による修正と、新穀の生産高385.52百万トンと今年度から21.45百万トン（5.9%）の増産予測が寄与して、期末在庫は92.55百万トンにと、需要の増加を吸収する期末在庫の拡充が見込まれている。ちなみに、今年度は中国の搾油消費が96.0百万トンに対して100.0百万トンの輸入見通し、新穀年度は搾油消費が100.0百万トンに対して、103.0百万トンの輸入見通しで変わりはない。一方、ブラジルの新穀は144.0百万トン（7.0百万トンの増産）、アルゼンチンには52.0百万トン（5.0百万トンの増産）を見込んでいる。

### ③小麦

旧穀年度の消費側の統計が集計中の段階なので据え置きが想定されていたが、思いがけずに、米国農務省は輸出需要見通しを200万ブッシェル引き上げて、足下の船積みが堅調に推移したためとの理由付けを行った。期末在庫は前月より200万ブッシェル少ない852万ブッシェルに改訂され、期末の対消費在庫率は1.4%減少して40.4%になったが、全体としては余剰感が残った。新穀年度は冬小麦の生産高推定が行われ、前月より260万ブッシェルの増産見通しで1,309万ブッシェルに引き上げられたことで、全小麦の生産高予測は1,898万ブッシェルになった。繰越在庫の減少200万ブッシェルと、生産高の上向き改訂が260万ブッシェルとが相殺される中、新穀年度の飼料用途の消費が100万ブッシェル引き上げられたことで、期末在庫は前月予測より400万ブッシェル少ない770万ブッシェルに微調整された。期末の対消費在庫

## 小麦の需給予測

USDA報告月次	20/21 crop			21/22crop			前年比	前月比
	4月	5月	6月	(観測会議)	5月	6月		
作付面積	44.3	44.3	44.3	45.0	46.4	46.4	2.1	0.0
収穫面積	36.7	36.7	36.7	37.2	37.4	37.4	0.7	0.0
単収	49.7	49.7	49.7	49.1	50.0	50.7	1.0	0.7
生産高	1,826	1,826	1,826	1,827	1,872	1,898	72	26
期首在庫	1,028	1,028	1,028	836	872	852	▲ 176	▲ 20
輸入	110	105	105	130	125	125	20	0
総供給量	2,964	2,959	2,959	2,793	2,869	2,875	▲ 84	6
食糧用途	965	960	960	965	963	963	3	0
種子	63	63	63	65	62	62	▲ 1	0
飼料用途	100	100	100	140	170	180	80	10
国内消費	1,128	1,123	1,123	1,170	1,195	1,205	82	10
輸出需要	985	965	985	925	900	900	▲ 85	0
総需要量	2,113	2,088	2,108	2,095	2,095	2,105	▲ 3	10
期末在庫	852	872	852	698	774	770	▲ 82	▲ 4
在庫率(%)	40.3	41.8	40.4	33.3	36.9	36.6	▲ 3.8	▲ 0.3
農家価格	5.00	5.05	5.05	5.50	6.50	6.50	1.45	0.00

注：面積は100万エーカー，単収はブッシェル・エーカー，生産・消費は100万ブッシェル。

庫率は36.6%と、需給が幾分か引き締まりに転じたが、今月は農家価格見通しが据え置きになった。

世界の新穀年度の小麦需給見通しは需給規模が更に拡大して、世界の小麦生産高は過去最高の794.4百万トンと予測された。中国の飼料用途の消費は今年度より5.0百万トン減少して35.0百万トンと見込まれ、期末在庫は3.0百万トン少ない142.63百万トンになるとの予測になるが、全世界の48%を中国が保有すると推定されている。

このように、米国農務省の6月度需給予測には、三者三様の方向性が示されたことで商品の比価、または時間差を利用した裁定取引が促された。トウモロコシや大豆では、旧穀と新穀との較差がこれまでも大きな関心事になっていたが、これに加えて飼料用途の使用価値を巡る小麦とトウモロコシとの較差、更には小麦の品質適性を巡る、ハード対ソフトなど、あらゆる形でのスプレッド取引が活発化することになった。今年の特徴は、収穫期の迫った冬小麦が端境期に向かうトウモロコシよりも安価に取引されるようになった

が、新穀と旧穀との較差も、割安な期先限月に実需のヘッジ買いが広まって、その逆転幅が急速に縮小に向かった。

## \* 6月末の実作付面積報告に向っての穀物市場

6月20日時点の週間作況作柄進捗報告では、ほぼすべての作物の作況評価が3週連続で低下して、期待された降雨による作況の改善が局地的なものにとどまった。トウモロコシの作況評価は前週より3%低下して前年同期を7%下回る65%となったが、コーンベルト北西部（アイオワ、ミネソタ）とイリノイの悪化が南北ダコタの低評価に上乘せとなった。そして大豆は、前週から2%の悪化で前年同期より10%低い62%になった。トウモロコシ同様に、コーンベルト北西部の評価が低く、南北ダコタともどもこの地域の土壌水分不足が顕在化した。

前週から、北部産地や中西部での降雨や追加の降雨予報に伴い、投機筋の天候プレミアム外しが進んできたが、実際の作況評価の改善に繋がるかどうかは、今のところは覚束ないが、穀物市場は天候相場特有の価格変動性を印象付けると同時に、マクロ経済が国際市況商品市場に及ぼす影響力の凄まじさを再認識させられている。過去にも消費者側の立場から、商品先物市場での投機については、その行き過ぎを指摘されることが多かったが、今回は様々な不運が重なって国際需給が引き締まったところに、各国政府がコロナ禍からの脱却を目的として、超緩和の金融政策を積極的に推進したことが発端であった。

先物市場の総本山であるシカゴ定期には、そうした潤沢な投機資金が大量に流入して、需給の逼迫化懸念に備えていた。これまでの天候懸念（高温乾燥）が和らぐタイミングで、米国の金融政策が前倒しで引き締めに移行する可能性と重なり、投機筋が資金の移動に着手すると、何時もの通り、入り口は複数だったが出口は一つなので、大豆及び大豆製品の定期が急落となった。大豆の高騰がそうであったように、テクニカルな観点では、過去には小刻みに発動されてきた一日の値幅制限が、近年は大幅に拡大されており、今回も大豆油の定期が3.50セントの値幅制限に引っ掛かったことで、大豆油のみな

らず、大豆には150セント、大豆ミールは45ドル、そして発端になった大豆油は5.50セントに一日の値幅制限が拡大されたことが、先物市場の価格変動性を理論値以上に大きくすることになった。週間の高値／安値を見ると、大豆は旧穀が180セント、新穀は190セント余りの値動き幅になったので、トウモロコシの旧穀の60セント弱、新穀の70セント弱に比べて、大豆の価格変動性の大きさが突出している。

先物取引の大前提である、「何時もニコニコ現金で」の原則を維持出来なくなった参加者の持高が強制手仕舞いされることで、売りが売りを呼んだと推察できる。こうして価格変動の原因を考えて見ると、何時ものように思い掛けない安値が実需の底値拾いの買いを誘発することになった。6月17日の安値は、大豆が1,323.50セント、トウモロコシが629.50セント、そして小麦は637.25セントになり、目先の安値を確認したとする買注文が広まると、今度は一転して売り手不在に陥り、週末を控えて大豆やトウモロコシが半値戻し、小麦は前日の下げを帳消しにして週を終わった。

こうした価格変動の大きさは、短期的な穀物需給の変動では説明不可能で、どうしても米国ドルの変動をもたらした、マクロ経済見通しの変容に原因が求められることになる。しかし、この反発を引き出し要因は、トウモロコシにアジア諸国からの調達が生じたこと、更に大豆で中国が米国産大豆を10月積で数隻分調達したとの噂が流れたことが発端になったという。（後日、336.0千トンの大口成約報告で確認された。）従って、マクロ経済がもたらした価格の高騰局面は、生産者に絶好のヘッジ機会を提供したが、インフレの兆候が強まるとFRBは2大責務の一つを履行しなければならないので、利上げによる米国ドル高が視野に入ってくる。そこに高騰した価格が急落する局面が生まれて、実需家にヘッジ買いの機会をもたらすことになる。物事は未来永劫続くことと錯覚されることが多いが、ものの見方（先の評価）は極めて頻繁に変動する。結果として、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」になる。

こうして見ると、市場を取り巻く要因は実にさまざまなものがあり、マク

口経済が前面に躍り出ること、天候不安は何処かに忘れられてしまった。果たして、これからの重要な生育期（トウモロコシの受粉期、大豆の開花期、そして忘れてはならない小麦の成熟期）に向けて、穀倉地帯の天気が協力的なのかどうか、そして外部要因でもたらされた安値圏で何処まで需要が拡大するのかなど、穀物市場本来の需給動向に注意が向かう順番のように思われる。市場では、早くも6月末の実作付面積の改訂が話題にされるようになり、農業誌（プロファーマー）はトウモロコシの面積は意向面積より2.5百万エーカーの増加、大豆は同じく1.1百万エーカーの上向き改訂を予想し、天候がもたらした初期生育への悪影響が相殺されるとの見方になっている。

(2021年6月22日記)

## 秋季為替セミナー開催のご案内

飼料輸出入協議会

恒例の秋季為替セミナーを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、開催形式は会場開催とweb開催の両方（ハイブリッド方式）にて予定しておりますが、コロナ感染状況により変更の可能性もあります。決まり次第ご連絡いたします。

### 記

日時：令和3年9月10日(金) 14時～15時30分

場所：新橋ビジネスフォーラム <http://biz-forum.jp/access.html>  
港区新橋1-18-21 第一日比谷ビル8F TEL 03-5843-9169

演題：「今後の景気と為替の見通し」（仮題）

講師：三井物産フィナンシャルマネジメント(株)様

参加料：無料、先着100名まで

■参加ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

飼料輸出入協議会 電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

Email: [jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp](mailto:jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp) (宮本宛)

又は [jfta-nishida.f@snow.ocn.ne.jp](mailto:jfta-nishida.f@snow.ocn.ne.jp) (西田宛)

## 編 集 後 記



1987年に社会人になり、初めて配属された先でのこと。穀物類の本船担当の先輩が、毎朝、あちこちに電話して「天気はどう？」などと世間話をしているようで驚いた。「これ、商社の仕事？」というのが第一印象である。雨天では荷役ができないため毎日の天候の確認が重要な仕事だと教わった。いきなりコロンブスの卵である。

その仕事に慣れたころ、トウモロコシの在庫が乏しいことがあった。中国のある港で日本向けメイズの船積み中である。こういう時に限り現地は雨。

当時、気象衛星「ひまわり」の雲の画像を使って天気を説明することが本格化していた。テレビの画面で中国の積出港に雲があるのを見た怖いもの知らずの新入社員は、気象庁の天気相談室に電話した。「中国にある雲ですが、現地での程度の雨を降らせていますか？」先方は回答の前に「なんでそんなことを聞くのですか？」と怪訝そうに逆質問。中国のこの港で、家畜のエサの原料となるとうもろこしの船積みをやっていること、この船が雨で遅れると、大変なことになると答えたら、「世の中には色々な仕事があるんですねあ！」と言われた。

入社して半年を過ぎると、冬が近づく。これからの時期は海が荒れて船が遅れる。釣りをやることもあり、多少は天気のことに興味と知識があったので、船会社の人に色々な話を聞いた。最も分かりやすいのは「東京から富士山がきれいに見えたら、北米から日本に向かう船の到着が遅れる。」という話である。空気が澄んでいるのは、冬型の気圧配置が強くなって海が荒れることを物語っているというのである。

その後、相場にかかわるようになった。先の天候のことは分からないが、仮に天候を見通せても相場に勝てるとは限らないのが難しいところである。

今シーズンのNHKの朝ドラはヒロインが気象予報士を目指すというストーリーである。将来の天気を知ることが人に役立つということがヒロインにとって目標を持つモチベーションとなる。

新しい立場になった自分がどうやって人に役立って行くのがいいのか、改めて考えさせられている。(K.H.)

第57卷第3号／令和3年7月15日発行

発行人 姫野健二／発行所 東京都港区西新橋1-11-1 丸万一号館 飼料輸出入協議会

郵便番号 105-0003 電話 03(6457)9550